

參考資料

1 精華町地域福祉計画策定委員会委員名簿

(敬称略、順不同、平成21年3月現在)

区分	団体名等	委員名	役職等	委嘱・任命
学識経験を有する者	同志社大学	上野谷 加代子	社会学部 教授	委嘱
	花園大学	廣瀬 明彦	社会福祉学部 准教授	委嘱
地域協議会に所属する者	(社)精華町社会福祉協議会	玉岡 宣彰	会長	委嘱
	精華町ボランティア連絡協議会	田中 智美	会長	委嘱
	精華町民生児童委員協議会	笠井 正男	会長	委嘱
	精華町町政協力員協議会	奥 義和	会長	委嘱
	精華町老人クラブ連合会	井上 朗	会長	委嘱
	精華町身体障害者協議会	大上 たえこ	会長	委嘱
	精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなろ会』	中西 敦子	会長	委嘱
福祉団体に関係する者	(社)カトリック京都司教区カリタス会 高齢者総合福祉施設『神の園』	高田 全康	施設長	委嘱
	(社)盛和福祉会 児童養護施設『京都大和の家』	西川 満	施設長	委嘱
	(社)相楽医師会 精華班	天野 基弥	班長	委嘱
	(社)相楽福祉会 相楽地域障害者生活支援センター	傍島 規子	センター長	委嘱
その他の関係する者	精華町立小・中学校校長会	仲野 久仁俊	会長(川西小学校校長)	委嘱
	NPO法人 けいはんな文化学術協会	郷原 秀昭	理事	委嘱
	谷地区小地域福祉委員会 『和会(なごみかい)』	中谷 幸孝	地域総括	委嘱
	子育てサポート『結(ゆい)』	松本 彰子	代表	委嘱
一般公募		曾根 郁子		委嘱
		岩井 三郎		委嘱
		川真田 順子		委嘱

2 精華町地域福祉計画策定作業部会委員名簿

(敬称略、順不同、平成20年11月現在)

団体名等		委員名
	精華町民生児童委員協議会	有馬 裕美子
	精華町民生児童委員協議会	飯田 智香子
	公募委員	五十嵐 勇
	公募委員	市原 礎
	精華町消防団	岩井 三郎
	精華町民生児童委員協議会	上羽 弘
	公募委員	遠藤 喜生
	精華町民生児童委員協議会	大西 傑
	公募委員	大平 久代
	地区福祉推進委員	川真田 順子
	精華町民生児童委員協議会	河村 佳子
	精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	木村 萬里子
	精華町民生児童委員協議会	近藤 かほる
	精華町民生児童委員協議会	齋藤 恵彦
	精華町民生児童委員協議会	澤田 典子
	精華町民生児童委員協議会	清水 朝江
	精華町環境ネットワーク会議	曾根 郁子
	精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	田中 紀代子
	精華町民生児童委員協議会	田中 茂子
	精華町ボランティア連絡協議会	千葉 弘子
	精華町ボランティア連絡協議会	中筋 郁子
	精華町食生活改善推進員連絡協議会『あすなる会』	中西 つね子
	精華町民生児童委員協議会	中村 教江
	公募委員	中山 堯史
	公募委員	宮田 照代
	公募委員	森田 昭二
	精華町ボランティア連絡協議会	森村 恵子
	精華町民生児童委員協議会	安田 千栄子
	公募委員	渡辺 眞理子
	子育てサポート『結(ゆい)』	松本 彰子
	谷地区小地域福祉委員会『和会(なごみかい)』	中谷 幸孝
	公募委員	杉嶋 茂孝
	公募委員	田尻 久哲
	(社)相楽福祉会 相楽地域障害者生活支援センター	傍島 規子
	(社)相楽福祉会 相楽デイセンター	永井 元
事務局	社会福祉協議会	杉山 典壽
	社会福祉協議会	細井 宣宏
	社会福祉協議会	下泉 幸美
	同志社大学	永田 祐
	同志社大学	室田 信一
	同志社大学	山本 香織
	アルパック(株)地域計画建築研究所 福祉課	大河内 雅司 岩井 秀樹

3 策定経過

	回	日 時	内 容	
策定委員会	第 1 回	平成 20 年 4/20 (日) 午前 11:00～	策定委員会の設置 委員長、副委員長の選出等 地域福祉計画、今後の進め方について	
フォーラム	第 1 回	4/20 (日) 午後 1:00～	基調講演、パネルディスカッション 今後の進め方 など	
作業部会	第 1 回	5/30 (金) 午後 1:30～	顔合わせ せいか隣人まつりについて意見交換 校区ごとのリーダー、サブリーダーの決定	
	第 2 回	6/24 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの練習 日程、場所の決定	
	第 3 回	7/15 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの準備 プログラムや役割分担について検討	
	第 4 回	8/6 (水) 午後 1:30～ 精中校区 8/7 (木) 午後 1:30～ 南中校区 8/12 (火) 午後 1:00～ 西中校区	校区ごとにせいか隣人まつりの最終準備 参加状況、プログラムを決定、役割分担の確認	
	せいか 隣人まつり	8/23 (土) 午後 1:30～	精華中学校区 せいか隣人まつり むくのきセンター内 多目的ホール	
		8/30 (土) 午後 1:30～	精華南中学校区 せいか隣人まつり 積水ハウス総合住宅研究所内会議室	
		8/31 (日) 午後 1:30～	精華西中学校区 せいか隣人まつり 精華町コミュニティホール	
	第 5 回	9/30 (火) 午後 1:30～	せいか隣人まつりの振り返り 今後の作業部会について	
	策定委員会	第 2 回	10/7 (火) 午後 1:30～	作業部会の経過と今後の取り組みせいか隣人まつり報告 アンケート調査結果のまとめ 地域福祉にかかわる現状と課題について
	作業部会	第 6 回	10/27 (月) 午後 1:30～	リーダー・サブリーダー会議の報告 テーマごとの班分け せいか隣人まつりで出された解決策の検討
第 7 回		11/20 (木) 午後 1:30～	せいか隣人まつりで出された解決策の分析 策定委員会への提案について など	
策定委員会	第 3 回	12/3 (水) 午後 1:30～	作業部会からの最終報告について 精華町地域福祉計画 (素案) について	
	第 4 回	平成 21 年 1/27 (火) 午後 1:30～	精華町地域福祉計画 (案) について 精華町地域福祉フォーラム (案) について	
フォーラム	第 2 回	2/22 (日) 午後 1:30～	計画策定の経過報告 作業部会及び隣人まつりの報告 計画案の説明、計画の実現に向けて など	
策定委員会	第 5 回	3/26 (木) 午後 3:30～	精華町地精華町地域福祉計画 (案) について 精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書 ほか	

4 精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書

平成 21 年 3 月 26 日

精華町長 木村 要 様

精華町地域福祉計画策定委員会

委員長 上野谷 加代子

精華町地域福祉計画の策定・推進に向けた提言書

この地域福祉に関する提言を通して、精華町の新時代を拓くきっかけとなることを切望するとともに、その推進に向けては、住民と行政が対話を重ねながら協働して取り組んでいくことを期待します。

記

1 計画の周知・啓発と、絵に描いた餅にしない住民参加の継続を

この計画の精華町らしさとして、策定委員会とともに作業部会の住民自身が「せいか隣人まつり」を開催することによって、幅広い住民の意見を集約し、計画に反映したことがあげられます。精華町ならではの住民参加によって計画がつけられたわけですが、今後はその実践が問われることとなります。町行政としても計画を「絵に描いた餅」にしないために、計画の周知・啓発に努めるとともに、今後の住民参加を引き続き支援してください。

2 社会福祉協議会や関係機関、事業所などの専門職の連携に向けて

計画の実践では、フォーマル、インフォーマルの両方から多様な担い手の参加、協力が不可欠です。特に、社会福祉協議会や関係機関、事業所などの専門職は、縦割りになりがちな業務をこえて連携し、住民や行政と手を携えて、計画の理念である「世代をこえて安心して住めるまち」の実現をめざしてください。また、住民のニーズに基づき、精華町社会福祉協議会が策定する精華町地域福祉活動計画と、この計画が一体的に推進されるように連携してください。

3 計画の進行管理と見直しについて

この計画では、住民側の計画の進行管理のしくみとして「(仮称) 地域福祉推進ネットワーク」をおくこと、庁内の施策連携を図る「地域福祉に関わる庁内調整会議」を立ち上げることとしています。また、計画の推進にあたり、この進行管理体制のもとで事業の着実な推進に努めていただき、国や京都府の動向やニーズに的確な対応をしていただくため、計画を弾力的に見直すようにしてください。

以上

5 せいか隣人まつりの報告(平成20年度実施)

(1) せいか隣人まつりの概要

①目 的

- 中学校区ごとに住民参加の手法によって、生活課題や解決策についての意見を集約し、計画に反映する。
- 地域福祉の担い手である作業部会委員が、参加の呼びかけから運営を行う。住民主体でせいか隣人まつりを行うことにより、計画策定後の実践に向けて継続的な参加につなげていく。

②日 時・場 所

精華中学校区	8月23日(土)	午後1:30～	むくのきセンター
精華南中学校区	8月30日(土)	午後1:30～	積水ハウス総合住宅研究所
精華西中学校区	8月31日(日)	午後1:30～	精華町コミュニティセンター

③広 報

精華町広報誌

作業部会委員から参加の呼びかけ

④内 容

全体会	せいか隣人まつりの趣旨説明
	地域福祉計画の説明
	地域福祉にかかわる精華町内の活動事例報告
班ごと	意見交換 地域福祉を考える上で
	「困っていること」「問題だと思うこと」「解決策」
	発 表

(2) 出された意見のまとめ

表 せいか隣人まつりで出された意見（件数）

分 類	計	精中	南中	西中
1 人のつながりづくり	103	26	38	39
2 マナーなどの人とのかかわり	73	26	15	32
3 ごみなどの環境美化、環境の保全	72	18	26	28
4 防災・防犯などの安全安心	49	11	14	24
5 地域ぐるみの子育て支援	41	9	12	20
6 世代間などの交流	15	—	—	15
7 高齢者の在宅生活支援	10	—	10	—
8 地域福祉の担い手の養成	21	7	9	5
9 情報の共有	13	—	10	3
10 道路・公共交通の充実	93	33	18	42
11 駅前周辺のまちづくり	31	31	—	—
12 公共公益施設の整備	23	—	—	23
13 買い物などの利便性	14	14	—	—
14 医療・福祉サービスの充実	17	11	6	—
15 行政との連携	35	—	21	14
合 計	610	186	179	245

出された意見を 15 のタイトルで分類しました。

○人のつながりづくり

最も多かったのは「人のつながりづくり（103 件）」であり、3つの中学校区に共通した課題となっています。

近所の人どうし、年齢を超えた付き合い、新地域と旧地域のかかわりがないことから、隣人力の強化が必要ではないかといった意見がありました。アパート、マンションの協力が得られない、自治会に入らない人が増加しているといった意見もあります。また、学校と地域との関係が弱くなっていることや、その他、養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない、といった意見もありました。

○マナーなどの人とのかかわり

次いで多かった意見は、「マナーなどの人との関わり（73件）」、「ごみなどの環境美化、環境の保全（72件）」です。これらについても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

マナーなどの人とのかかわりは、犬のふん、ごみ、迷惑駐車などの問題が出されています。あいさつをしっかりと欲しいといった意見からも、日常的なコミュニケーションや人のつながりが薄れてしまったことが、これらの問題の背景として考えられます。

○ごみなどの環境美化、環境の保全

「ごみなどの環境美化、環境の保全」では、ごみ出しのマナーが悪いこと、ごみのポイ捨てが発生していることに加えて、高齢者にとってごみの分別やゴミ出しが難しい状況が指摘されています。

また、高齢化による農業の担い手不足に関連して、農地や空き地の保全の問題も指摘されています。

○防災・防犯などの安全安心

「防災・防犯などの安全安心」について49件の意見があり、これらについても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

隣近所とのつながりが失われており、災害に弱いのではないかと、消防団を含めた自主防災組織が必要ではないかという意見があります。

また、子どもを狙った犯罪が増えていることに対して、防犯の連絡網づくりやパトロールへの参加呼びかけの意見があります。

○地域ぐるみの子育て支援

「地域ぐるみの子育て（41件）」についても、3つの中学校区に共通した課題となっています。

旧地域では、子どもの減少が問題視されている一方で、新地域では、核家族の子育て不安などから、子どもに声かけのできる地域を求める意見があります。そのほかに、核家族の父母の就労支援、病(後)児保育や、子どもが大声で遊んだり、ボール遊びをしたり、安心してできる場がないといった意見があります。

○地域福祉の担い手の養成

「地域福祉の担い手の養成（21件）」では、ボランティアの高齢化や担い手不足

の問題が指摘されており、男性の参加、高齢者のボランティアへの参加を進めるべきといった意見があります。また、人材確保のために、養成講座を修了した人の交流が必要なこと、各団体間の横のつながりづくりを進めようといった意見があります。

○情報の共有、世代間の交流、高齢者の在宅生活の支援など

そのほかに、「情報の共有（13件）」にかかわる意見のほか、西中では「世代間の交流（15件）」、南中では「高齢者の在宅生活の支援（10件）」について意見がありました。

○道路・公共交通の充実

行政とのかかわりが大きな意見として「道路・公共交通の充実（93件）」にかかわる意見が多く出されていました。自動車をもっていないと生活しづらいまちであることから、バス交通の充実に対して多くの意見がありました。

○駅周辺のまちづくりなど

そのほかに、精中校区では「駅前周辺のまちづくり（31件）」や「買い物などの利便性（14件）」、西中校区では「公共公益施設の整備（23件）」にかかわる意見があり、地域性が表れています。

○医療・福祉サービスの充実、行政との連携

「医療・福祉サービスの充実（17件）」では、一人暮らし高齢者をどのように見守っていくか、卒業後の障害のある人の居場所づくり、小児科の救急医療の受け入れ先が限られているなど、福祉サービスの充実についての意見がありました。

「行政との連携（35件）」では、住民のニーズの把握不足や福祉活動の広報（広報誌に各団体の活動紹介など）の充実などの意見がありました。

（3）参加者アンケートから

①多世代の参加に向けて

参加の呼びかけは作業部会委員が行ったことから、地域の団体間のネットワークや委員の人のつながりが参加状況に反映されています。初めての試みにもかかわらず、精華中学校区 51 名、南中学校区 50 名、西中学校区 62 名、計 163 名（作業部会委員を除く）の住民の参加があり、地域における人のつながりを再確認すること

ができました。

一方で、参加者は高齢者が多かったことから、若い世代の意見の把握が十分ではなく、今後の取り組みでは多世代の参加呼びかけが求められています。

②幅広い参加（子育て支援、高齢者、障害者福祉、自治会など）をめざして

参加者の所属は自治会などからが多く、子育て支援や高齢者福祉関係からの参加もありました。障害者福祉関係の参加が少なかったことから、障害のある人が参加できる環境を整えることにより、幅広い参加をめざすことが求められています。

③場づくりの期待に応えて

『せいか隣人まつり』の今後について、「続けた方がいい(精中 86.3%、南中 80.0%、西中 84.5%)」という声が多く寄せられています。

その理由では、「住民の声を聞くことができ相互理解ができる。」「新旧地域の交流を図る一手段となる。」「世代、地域を問わずに話し合いができるのでよい。」「いろいろな声を聞く場が必要。」「横のつながりができる。」などの回答がありました。

今後の『せいか隣人まつり』については、「もう少し年代別に中学、高校、20代、30代…とテーマを決めて話し合うとよい。」「若い世代が少なかったことが残念。」「ワークショップの運営はリーダーの役割が大切、テーマを絞って議論を進める方がよい。」「行政まかせの意見が多い。問題解決には住民が自らの力を出す方向にしていくと地域連携が図れる。」「今回の参加は自治会や地域に関心のある人が多かった。今後は、関心の低い層や中間層に対する意識付けが必要。」などの回答がありました。

表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
<p>1 人のつながりづくり 103件</p> <p>精中 26件 南中 38件 西中 39件</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・隣人力の強化が必要ではないか ・近所の人との会話や話し合う機会がない ・年齢を超えた付き合いが少ない ・隣近所、特にアパート、マンションの協力が得られない ・自治会に入らない人が増加している ・新地域と旧地域の人たちがかかわる場が少ない ・学校を取り巻く団体等がバラバラである(P T A、学校、ボランティア) ・行政や協議会が縦割りである ・養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない ・障害のある人へのかかわり方、声のかけ方がむずかしい ・地蔵盆がないので(地蔵がないため)子どもに伝えていけない ・古くからの伝統行事について、若い世代は、守り、継承していく意思はあるが、金銭面と人員が減少している面で不安を感じている ・自治会活動で、子供会が別団体となっており一体の活動がやりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のあいさつ、声かけが交流につながる ・地域で交流できる場を作る ・山田川を通して環境(人のつながりづくり)が出来ないか ・他地域が集まる懇談会の開催 ・PTA 活動の活性化、学校との連携 ・子供世帯の自治会加入促進 ・祭りなど行事を計画 ・自治会を中心にネットワークが出来たらと思います ・自治会に加入するメリットを考える ・無理のないリーダーと楽しい企画作り ・県人会、なんでもいいのでつくって交流する場 ・地域に根ざしたボランティアの育成
<p>2 マナーなどの人のかかわり 73件</p> <p>精中 26件 南中 15件 西中 32件</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・犬のふんの後始末をしない人が多くて困る ・ごみがそこらじゅうに散らばっていること ・あいさつをしっかりして欲しい ・あいさつ運動の時、各自治会の協力を働きかける ・住宅地内での迷惑駐車 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいた者からあいさつしていくような地道な活動 ・ボランティア活動に参加してもらう ・警察に取り締まってもらう ・夜間パトロールの強化 ・罰金を入れた条例を作る ・犬が自由に走れる(ドックラン)公園をつくる ・自治会でステッカーをはって迷惑している事を伝える ・城陽市には市議会で議決された“犬のフン害防止条例”があります
<p>3 ごみなどの環境美化、環境の保全 72件</p> <p>精中 18件 南中 26件 西中 28件</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ出しのマナーが悪い ・ごみの分別が難しい(特にお年寄り) ・高齢化により地形的な条件からゴミ(古紙)を回収場所にもっていくのが困難 ・町内のどの公園もごみのポイ捨てで汚いと思うときがある ・旧地域のためゴミステーションがなく汚い ・廃品回収、ペットボトル回収の日が少ない ・高齢化による農業の担い手不足 ・空き地の草刈り後の後始末を行って欲しい ・草刈りを増やして欲しい(国道163号線) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、地域で勉強会を開く ・住民と公の役割分担を自覚し、住民は分別の徹底を行う ・町で荒地の把握 ・農業生産法人をつくり、明いた農地を管理する。 ・農業の担い手の育成 ・自治会の一斉清掃だけでは不十分なので、業者委託等も利用しては ・衛生課の方がリサーチして回収して欲しい ・雑草等のカット、5月、8月、の2回実施、役場へ申し入れ
<p>4 防災・防犯などの安全安心 49件</p> <p>精中 11件 南中 14件 西中 24件</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな災害などで一番大切なのは、隣近所とのつながり、これが少ないかな? ・集中豪雨時の木津川西岸部の水害が心配(情報伝達と避難指示) ・消防団の維持が困難 ・地区に自主防災組織を立ち上げて欲しい ・子育てをターゲットにした犯罪が増えている ・防犯の連絡網が自治会上層部でとどまり、末端まですみやかに届く組織づくりを ・若いお母さんの昼、朝のパトロールへの参加がない ・防犯パトロールの強化 ・奈良県、木津川市と精華町の県境の防犯への疑問 ・交番がない ・狛田地区の駐在所が廃止されてしまう ・光台交番におまわりさんがあまりいない ・防犯灯の増設 ・駐輪場(駅前)が夜間暗くてこわい 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害情報の早期伝達と要援護者の早期避難の徹底 ・各自治会の自主防災・防犯の強化 ・消防、自治会による意識啓もう活動(訓練)の実施 ・登下校の時間帯に声かけを行ったり、送迎をしたりする ・町会毎に高齢者・子どもの見守り隊を養成、交流をする ・消防署の増設 ・不審者などの情報公開 ・街路灯の増設 ・(地域単位)メーリングリストの利用 ・住民からニーズを上げていく→安全委員へ

分類	件数	主な意見	主な解決策
5 地域ぐるみの子育て支援 41件 精中 9件 南中 12件 西中 20件		<ul style="list-style-type: none"> ・暴走族の取り締まり強化 ・旧地域の子どもが減少していることに対する将来への不安 ・若者と同居家庭が少ない ・子どもに注意、声かけのできる地域づくり ・親が子育てで勉強する場が少ない ・育児中の食事支援 ・核家族の父母の就労不安 ・学童保育の有り方の見直しと利用者のニーズの把握に努めてほしい ・母親が長期の入院等になった際子供の事が心配、病児保育 ・いつでも気軽に立ち寄れる場所づくり（子育て中のお母さん、子ども、他の年代の方） ・子どもたちが安全に遊べる場所が少ない ・公民館などの施設が少ない ・駐車場のあるグラウンドが精華町にない ・子育て支援センターの充実 ・育児サークルで子供がいるのに集まらない ・子どもが大声で遊んだり、ボール遊びをしたり安心してできる場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援には老人の力を借りるのも一案 ・補助金を増額し、子どもを地域で育てる環境作り。 ・校区ネットワーク会議で学校支援の具体化をすすめる ・人材バンク窓口を作りボランティアを派遣 ・府認定地域サポーター連絡協議会に問い合わせを ・社会福祉協議会子育て支援センター制度がある ・学童保育、同級生で家に人（親）がいる友達の家と一緒に遊べるようなしくみを考える ・住民の手で公園の整備をしたらどうか ・持主に協力してもらい、空地を活用させてもらう ・学校の図書館などの地域開放
6 世代間などの交流 15件	西中 15件	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交流、例えば、育児サークルと老人サロンとの交流があればいい ・異世代交流の場が必要では ・意識の無い方や発言できない方の場が必要では 	<ul style="list-style-type: none"> ・町社協の方の仲立ちがあればいいのでは ・意見を自由に出せる web ・自治会を中心に横のつながりをつくる！ ・つなげていく人材を増やす、確保する
7 高齢者の在宅生活支援 10件	南中 10件	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者の増加 ・少子高齢化による医療費負担の問題 ・高齢者世帯の増加に伴うケアへの不安 ・地域と比べて福祉関係は劣っている？（ヘルパー・弁当など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設の設置（公立） ・運動訓練のできる施設の設置（町立） ・老健施設の誘致 ・老人会の活動を広める
8 地域福祉の担い手の養成 21件 精中 7件 南中 9件 西中 5件		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方が高齢になってきた ・次世代の地域福祉の担い手が少ない ・男性（働き盛りの）の地域参加が少ない ・何かをしたいという思いはあるが発揮できる場がない ・子育てサポートをしているがボランティアがいない ・サポーターやボランティア養成講座を修了した人を知りたい ・ボランティア養成講座を中学区毎に開催し、修了したもの同士の交流がしたい ・高齢者サロンが作りたいが、老人会もなければボランティアもない ・高齢者の活躍できる場を ・各団体（自治会、老人会、子ども会、その他のサークル）との横のつながりが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア講座を町や社協で開いてもらう ・役に立ったと感じれば、ボランティアをやるきっかけになる ・必要とされることで生きがいに繋がる ・各種団体での人材活用、人材バンクの設置 ・地域のネットワークをつくる
9 情報の共有 13件 南中 10件 西中 3件		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の連絡網整備（個人情報問題あり）どこに子どもがいて、老人がどうしているか、などを誰が把握しているか ・個人情報の法的制約と過剰反応により地域が見えにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の公用、非公式名簿 ・自治会単位で論議 ・自治会でお手伝い（無料）します情報登録制
計	397		

分類	件数	主な意見	主な解決策
10 道路・公共交通の 充実 93件 精中 33件 南中 18件 西中 42件		<ul style="list-style-type: none"> ・自動車をもっていないと生活しづらい ・バスの本数が少ない増便を、バス停を増やしてほしい ・谷・北稲はもっと地域の中にバス停を作してほしい ・くるりんバスを東畑の中心まで延ばしてほしい ・かしのき苑、むくのきセンターへのアクセスが不便 ・下粕駅付近の道路幅が狭く、車も多いため危険である ・粕田駅の地下通路が暗く危険で、車での送迎もしにくい ・住宅区内の大型車乗り入れの規制ができないか ・大型スーパーによる交通量増加で子供の事故が心配 ・横断歩道や歩行者のための道がない（東畑など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行時間、回数の見直し ・バス会社と地域行政の連携対策 ・福祉タクシー事業を提案、実行する ・駅前整備と同時に区画整理と安全灯の設置、バリアフリー対策を行政にしてもらう ・農地、調整区域を市街化区域に変更する ・道路規制を町から行う ・調査して良い運行を考える ・警察によるパトロールの強化（早朝、夜間含む） ・関係団体で話し合い、役場、警察に要望活動する
11 駅前周辺のまちづくり 精中 31件		<ul style="list-style-type: none"> ・開発の新旧格差があり過ぎる。粕田地区の開発はいつか ・南区公民館を新しく、もっと利用しやすい場所に移転してほしい ・公民館がバリアフリーでないのでお年寄りの集まりも不自由である ・南区地域の人口が多い割に集会所の数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・粕田地区の開発の遅れについて住民の意識を高める ・住民へのPR活動 ・南区公民館を移転、新築する（新祝園駅周辺）
12 公共公益施設の整備 西中 23件		<ul style="list-style-type: none"> ・気軽にスポーツできる施設がほしい ・JR 祝園駅にエレベーター、待合室をつけて欲しい（改札からホームへ） ・精華町として大きなグラウンドがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会でまとめて行政へ要望を出す ・府・町・行政の区別をなくすべき
13 買い物などの利便性 精中 14件		<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者で足も弱ってこられた方は、通院や買い物に不便を感じておられる ・粕田地区にスーパーがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興券の作成 ・近鉄にお願いする
14 医療・福祉サービスの充実 17件 南中 6件 精中 11件		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス供給主体の不足（施設など） ・緊急時の受け入れ先病院が少ない ・小児科の救急医療の受け入れ先が限られている ・養護学校生の一時預かりの場所が町内にない ・障害のある人が学校を卒業してからの居場所の確保 ・一人暮らし高齢者の方をどのように見守っていくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員体制の確立（チーム） ・福祉問題の質問先を設ける（町のホームページ・自治会のしかるべき人、組織） ・町社協との連携をはかる ・空家を利用 ・NPO法人を作る ・行政との話し合いをし続けていく
15 行政との連携 35件 南中 21件 西中 14件		<ul style="list-style-type: none"> ・公共公益施設のかたより（川西地区と山田荘） ・医療費補助の対象を広げてほしい。 ・住民のニーズの把握不足 ・住民が集まれる気軽な施設がない。 ・もっと利用できるスポーツ施設など、が欲しい ・福祉予算の拡大 ・福祉活動の広報（華創に各団体の活動紹介等） ・地域の民生委員を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティング、町政懇談会、アンケートの実施 ・当面、自治会間で協議を進め、集会所単位の行事活動にも相互に乗り入れを図る ・役場に町民の声を聞く係（直通電話）を置いて欲しい ・池谷公園の周辺にコミュニティーセンターの設置 ・公共公益施設の適正配置計画の策定や住民への説明 ・私の仕事館をつかって施設の改革
計	213		

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

精華中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 23 日（土）午後 1:30 から、むくのきセンターにて、精華中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 51 名の他、作業部会委員や事務局 33 名の計 84 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。

第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、精華台地区の片山さんから住民による防犯活動の取り組みについて、北稲人間地区の田中さんから地区福祉委員会による支えあいの活動について報告が行われました。



第2部 班ごとに意見交換、発表

6つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で186件の問題点、69件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。

それらの意見について班ごとに発表を行い、精華中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

最後に同志社大学の上野谷教授から、①中学生から80歳代までの参加によって多世代の集まりとなった、②短時間に生活に根ざした生の声が集められた、③縦割りを超えて福祉を考える場となった等、隣人まつりの成果について講評がありました。また、出された意見を計画づくりに反映していくこと、隣人まつりを同志社大学が地域の皆さんと一緒に取り組んでいく第一歩としたい、との話がありました。

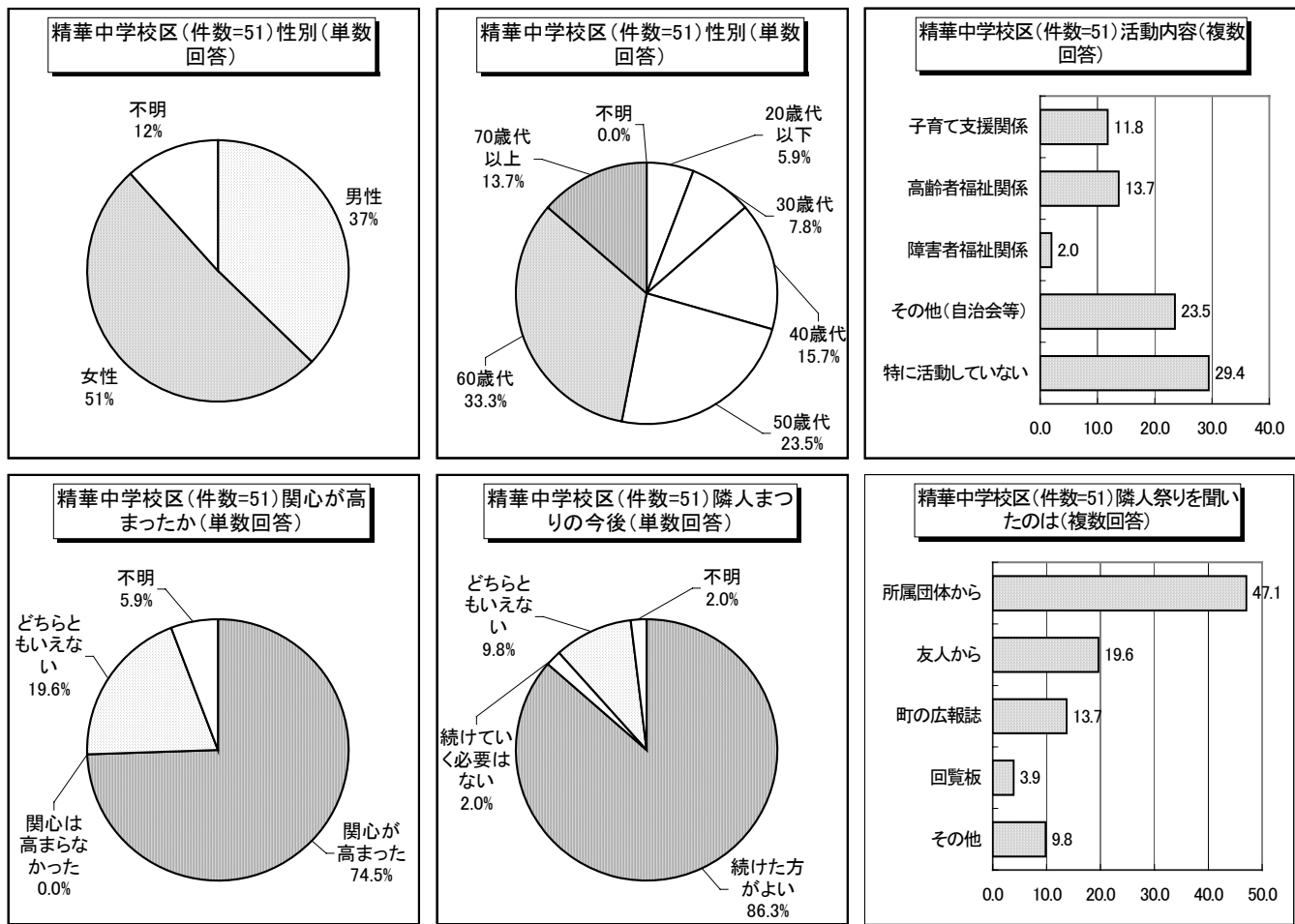


表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	26	<ul style="list-style-type: none"> 顔見知りで挨拶はするが、話をするまではいかない 障害者の方への関わり方、声のかけ方がむずかしい 近所の人との会話や話し合う機会がない 自治会に入らない人が増加している 新興住宅と旧村の人たちが関わる場が少ない 学校を取り巻く団体等がバラバラである(PTA、学校、ボランティア) 行政や協議会が縦割りである 	<ul style="list-style-type: none"> 隣組、地区のまとまりを活発にする 活動報告の仕方を工夫する(学校の外に行事予定を掲示する) 子供と高齢者の集まる村会 毎日のあいさつ、声かけが交流につながる 地域で交流できる場を作る

分類	件数	主な意見	主な解決策
マナーなどの人との関わり	26	<ul style="list-style-type: none"> ・犬の糞の後始末をしない人が多くて困る ・ごみがそこらじゅうに散らばっていること ・集まり場などでタバコを吸ったり、ごみをそのままにして帰る人がいる ・一部の住民のマナーが悪い（路上駐車等） ・現在の親は自分に自信がないので子供達を叱らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が勉強する事と再教育 ・年長者が教えていく場をつくる ・モラルを高める ・警察に取り締まってもらう ・夜間パトロールの強化
ごみなどの環境美化	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ出しのマナーが悪い ・ごみの分別が難しい(特にお年寄り) ・町内のどの公園もごみのポイ捨てで汚いと思うときがある ・旧村のためゴミステーションがなく汚い 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、地域で勉強会を開く ・住民と公の役割分担を自覚し、住民は分別の徹底を行う ・自分の家の前に出したり名前を書いたりする
防災・防犯などの安全安心	11	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間暗い(電灯が少ない) ・狛田地区の駐在所が廃止されてしまう ・集中豪雨時の木津川西岸部の水害が心配(情報伝達と避難指示) 	<ul style="list-style-type: none"> ・留守駐在所は不要 ・災害情報の早期伝達と要援護者の早期避難の徹底 ・登下校の時間帯に声かけを行ったり、送迎をしたりする
子どもの遊び場	9	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が安全に遊べる場所が少ない ・公民館などの施設が少ない ・駐車場のあるグラウンドが精華町にない ・球技のできるような公園や遊び場が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の手で公園の整備をしたらどうか
福祉サービスの充実	11	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢で独居の方をどのように見守っていくか ・養護学校生の一時預かりの場所が町内にない ・障害児の卒業生の進路先が町内にない ・社会福祉サービスの供給主体(施設など)が足りていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・空家を利用 ・NPO法人を作る ・行政との話し合いをし続けていく
地域福祉の担い手の養成	7	<ul style="list-style-type: none"> ・何かをしたいという思いはあるが発揮できる場がない ・住民のボランティア精神が希薄である ・ボランティアの方が高齢になってきた ・各団体はそれぞれに活動していても、横のつながりがほとんどない ・次世代の地域福祉の担い手が少ない ・男性のボランティア参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア講座を町や社協で開いてもらう ・広報にてアピールする ・役に立ったと感じれば、ボランティアをやるきっかけになる
計	108		
道路・公共交通の充実	33	<ul style="list-style-type: none"> ・下狛田駅付近の道路幅が狭く、車も多いため危険である ・生活道路への進入が多い ・狛田駅の地下通路が暗く危険で、車での送迎もしにくい ・くるりんバスのルートに分け、谷・北稲はもっと地域の中にバス停を作ってほしい ・かしのき苑、むくの木センターへのアクセスが不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前整備と同時に区画整理と安全灯の設置、バリアフリー対策を行政にしてもらう ・農地、調整区域を市街化区域に変更する ・ルートや時間帯の見直し ・デマンドシステムの導入
駅前周辺のまちづくり	31	<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄の東と西では道路の整備に格段の差がある ・ニュータウンの住民と旧村の住民との交流を深める機会をどのようにつくっていくか ・開発の新旧格差があり過ぎる。狛田地区の開発はいつか ・南区公民館を新しく、もっと利用しやすい場所に移転してほしい ・公民館がバリアフリーでないのでお年寄りの集まりも不自由である ・南区地域の人口が多い割に集会所の数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・狛田地区の開発の遅れについて住民の意識を高める ・住民へのPR活動 ・南区公民館を移転、新築する(新祝園駅周辺)
買い物などの利便性	14	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者独居の方で足も弱ってこられた方は、通院や買い物に不便を感じておられる ・狛田地区にスーパーがない ・銀行がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄にお願いする ・地域振興券の作成
計	78		

参加者アンケートのまとめ



「続けた方がよい」と答えた理由

地域住民の声が聞けるから 11件	<ul style="list-style-type: none"> ○色々な年の方、地域の方の意見が勉強になった。 ○みんなどんなことを考えているか分かり、相互理解ができる。 ○いろいろな声を聞く場が必要。 ○自分たちの住んでいる環境問題が話し合えてよかったです。
集まることに意味があるから 10件	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションづくりになるし、各々の問題意識が高まり、行政への参画意識が高まる。 ○横のつながりができ意識向上につながる。 ○初めてお会いする方々でしたが、共通するテーマで大いに盛り上がり、有意義な時間を過ごせました。 ○地域での隣人(友達)づくりは今、最も必要と思う。
もっと話し合う必要があるから 3件	<ul style="list-style-type: none"> ○また新しい問題点が出てくるかもしれないから、やったほうがいいと思う。 ○いろんな問題が出ているが、解決策が出ていないので続けたほうが良い。
活動参加者を増やすために 3件	<ul style="list-style-type: none"> ○より広い年齢層、団体等からの参加を呼びかける必要がある ○もっとたくさんの人に来てもらえるように。

感想など

隣人ひろばの内容について 20件	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢の違う老若が一ヶ所に集まり、このような機会を与えてくださって良かったのでは。 ○同じように思い、感じている方が多いことがわかった。少しずつでも精華町が良くなればと思います。 ○10代から80代の人たちの意見がかわされ、大変良かったと思います。これからも住民のいろんな方々が出席され不満や喜びを語り合えたらと思います。 ○進行係が手際よくして下さったので楽しく話し合いができた。 ○皆さんいい意見を出されていましたが、これを改善するのはとても難しいと思います。町全体がひとつになって取り組んでいってもらえたらと思います。
改善してほしいこと 5件	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ方式は、たくさんの意見が出てよいと思うが、結論に結びつきにくい。コミュニティーの観点から考えると大成功でしょう。ただ、テーマから考えるとどうしても行政任せの意見が多い。参画はこの場だけでなく、日常生活でも意識できるよう終結したかった。 ○他の方と自分のまわりを良くしていくための話なので、もっといくつかの題材に深く入っていけるような話し合いをしたかったと感じました。 ○テーマを絞って、議論を進めるほうがよい。
その他 2件	<ul style="list-style-type: none"> ○一回で終わらないで続けてほしい。

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

精華南中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 30 日（土）午後 1:30 から、積水ハウス総合住宅研究所内会議室にて、精華南中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 50 名の他、作業部会委員や事務局 21 名の計 71 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。

第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、桜が丘地区の三原さんから PTA における携帯電話のメールを使った情報交換の取り組みについて、谷地区の永嶋さんから地区福祉委員会による支えあいの活動について、東畑地区の大谷さんから子ども見



守り隊の活動について報告が行われました。

第2部 班ごとに意見交換、発表

6つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



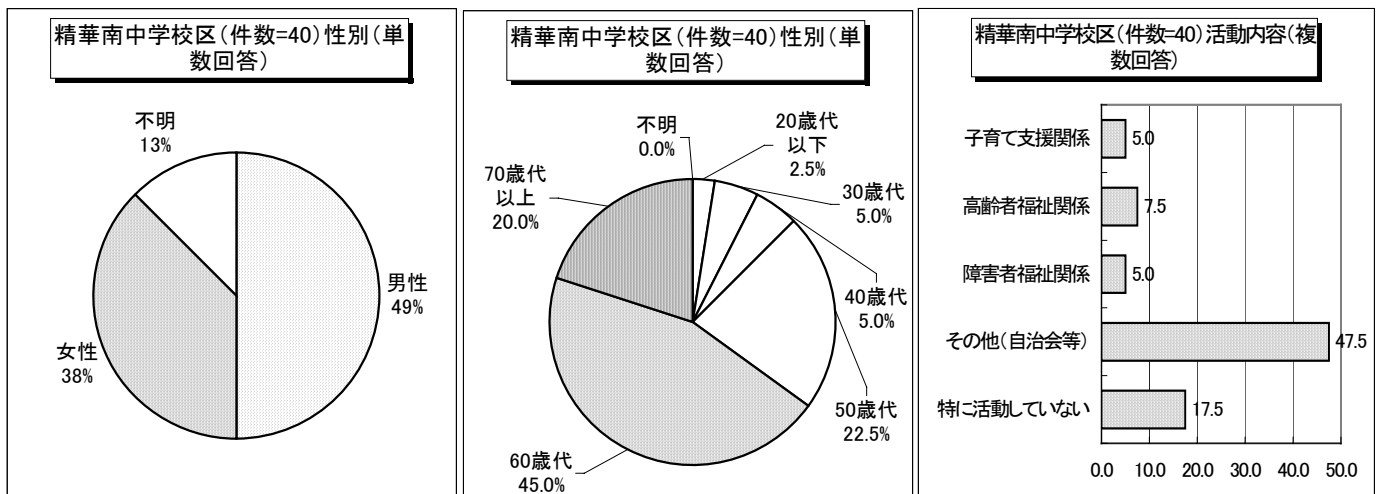
「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で179件の問題点、96件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。それらの意見について班ごとに発表を行い、精華南中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

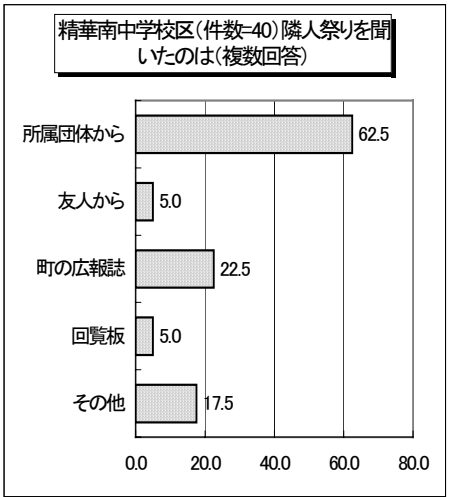
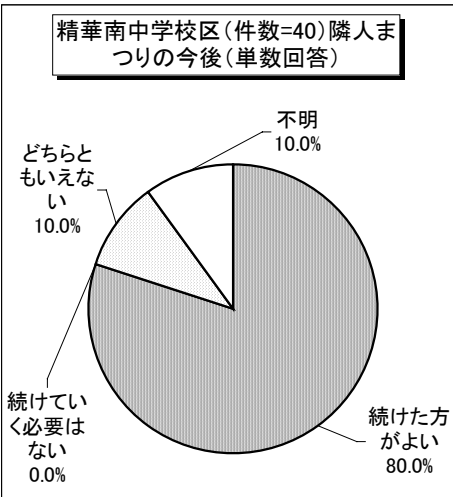
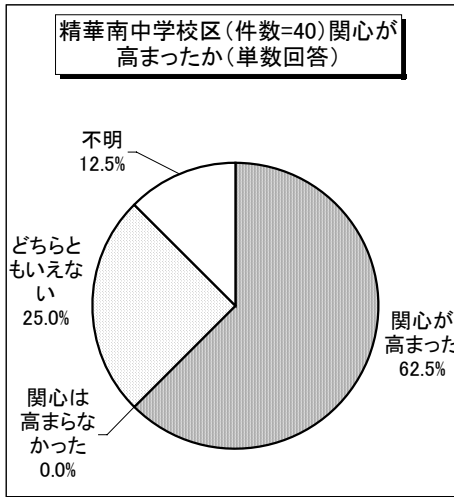
表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	38	<ul style="list-style-type: none"> ・隣人（近所）と気軽に付き合いたい（挨拶） ・各地域との交流ができるしっかりしたネットワークがほしい ・隣人力の強化が必要ではないか ・世代間の考え方の違い ・年齢を超えた付き合いが少ない ・旧村と新興の交流がない ・地蔵盆がないので（地蔵がないため）子どもに伝えていけない ・古くからの伝統行事について、若い世代は、守り、継承していく意思はあるが、金銭面と人員が減少している面で不安を感じている ・自治会の加入率の悪さ ・養護学校に通う障害児は地域に付き合いが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・山田川を通して環境（人のつながりづくり）が出来ないか ・他地域が集まる懇談会の開催 ・自治会を越えての交流 ・2丁目集会場は公民館のように集まれるようにする ・各自治会単位のサークルを桜ヶ丘全体のものにする ・PTA活動の活性化 ・学校との連携 ・子供世帯の自治会加入促進 ・祭りなど行事を計画
マナーなどの人との関わり	15	<ul style="list-style-type: none"> ・犬の飼い方の問題 ・車のマナーを守らない ・ゴミ出しのマナーを守らない ・挨拶をしっかりと欲しい ・吸殻のポイ捨て（火災が心配） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター等でマナーを訴えかける ・ボランティア活動に参加してもらう
防災・防犯などの安全安心	14	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールの強化 ・暴走族の取り締まり強化 ・消防団の維持が困難 ・地区に自主防災組織を立ち上げて欲しい ・交番がない ・防犯灯の増設 ・奈良県木津川市と精華町の県境の防犯への疑問 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の自主防災・防犯の強化 ・町会毎に高齢者・子供の見守り隊を養成、交流をする ・消防署の増設 ・不審者などの情報公開 ・自宅まわりを明るくする ・街路灯の増設
ごみなどの環境美化	6	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により地形的な条件からゴミ（古紙）を回収場所にもっていくのが困難 ・廃品回収、ペットボトル回収の日が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のゴミ回収日を増やす ・ゴミ分別の勉強会の開催
環境の保全	20	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による農業の担い手不足 ・空き地の草刈り後の後始末を行って欲しい ・草刈りを増やして欲しい（国道163号線） ・新旧住宅の格差により、同一基準で考えられない。 ・空区画の雑草が伸び放題 	<ul style="list-style-type: none"> ・町で荒地の把握 ・農業生産法人をつくり、明いた農地を管理する。 ・農業の担い手の育成
地域ぐるみの子育て支援	12	<ul style="list-style-type: none"> ・旧村の子どもが減少していることに対する将来への不安 ・若者と同居家庭が少ない ・見守り隊の地域により活動が低調なのが心配 ・子育て支援センターの充実 ・育児サークルで子供がいるのに集まらない ・子供が大声で遊んだり、ボール遊びをしたり安心してできる場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金を増額し、子どもを地域で育てる環境作り。 ・校区ネットワーク会議で学校支援の具体化をすすめる ・自治会と学校関係者の交流 ・人材バンク窓口を作りボランティアを派遣 ・府認定地域サポーター連絡協議会に問い合わせを ・小中学生を見つけて声をかけてみる ・年齢にこだわらずできることには

分類	件数	主な意見	主な解決策
高齢者の在宅生活支援	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居老人の増加 ・ 少子高齢化による医療費負担の問題 ・ 高齢者世帯の増加に伴うケアへの不安 ・ 地域と比べて福祉関係は劣っている？（ヘルパー・弁当など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加を促す ・ 高齢者施設の設置（公立） ・ 運動訓練のできる施設の設置（町立） ・ 老健施設の誘致 ・ 老人会の活動を広める
地域福祉の担い手の養成	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサポートをしているがボランティアがいない ・ サポーターやボランティア養成講座を修了した人を知りたい ・ ボランティア養成講座を中学区毎に開催し、修了したものの同士の交流がしたい ・ 高齢者サロンが作りたいが、老人会もなければボランティアもない ・ 高齢者の活躍できる場を ・ 自治会、婦人会などの活動が独立して連携が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要とされることで生きがいに繋がる ・ 各種団体での人材活用、人材バンクの設置 ・ 地域のネットワークをつくる
情報の共有	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法による社会活動の弊害 ・ 災害時に隣人の情報が必要 ・ 緊急時の連絡網整備（個人情報の問題あり）どこに子供がいて、老人がどうしているか、などを誰が把握しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の公用、非公式名簿 ・ 自治会単位で論議
計	134		
公共交通等の充実	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ かしのき苑、むくのきセンターへのアクセス ・ バスの本数が少ない増便を ・ 住宅区内の大型車乗り入れの規制ができないか ・ 大型スーパーによる交通量増加で子供の事故が心配 ・ 交通面が不便、車がないと移動が不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの運行時間、回数の見直し ・ バス会社と地域行政の連携対策 ・ 警察とタイアップしてチェックを ・ 道路規制を町から行う
医療・福祉サービスの充実	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービス供給主体の不足（施設など） ・ 緊急時の受け入れ先病院が少ない ・ 小児科緊急医療の受け入れ先が限られている ・ 障害のある人が学校を卒業してからの居場所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談員体制の確立（チーム） ・ 福祉問題の質問先を設ける（町のホームページ・自治会のしかるべき人、組織） ・ 町社協との連携をはかる
行政との連携	21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共公益施設のかたより（川西地区と山田荘） ・ 3歳未満（？）までの医療費補助はあるが、それを幼稚園、小学校低学年ぐらゐまで対象を広げてほしい。 ・ 町民のニーズの把握不足 ・ 住民が集まれる気軽な施設がない。 ・ もっと利用できるスポーツ施設などが欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共公益施設の適正配置計画の策定及び住民への説明 ・ タウンミーティング、町政懇談会、アンケートの実施 ・ 池谷公園辺りにコミュニティーセンターの設置 ・ 当面、自治会間で協議を進め、集会所単位の行事活動にも相互に乗り入れを図る ・ 役場に町民の声を聞く係（直通電話）を置いて欲しい ・ 私の仕事館をつかって施設の改革
計	45		

参加者アンケートのまとめ





「続けた方がよい」と答えた理由

地域住民の声が聞けるから 10件	<ul style="list-style-type: none"> ○他地域の人たちの意見を聞いて参考になったり、納得し、解決策が出てきた ○新旧地域の人と話し合えることができ悩んでいることも違うということが分かり、続けることによってまた分かり合えることができる。 ○自分一人の考えと、万人の考えとを比較できる。
集まること自体に意味があるから 8件	<ul style="list-style-type: none"> ○関心を持つという事が大事だと思います。 ○新・旧住民の交流を図る上での一手段である ○近所でも特定の人しか話さない状況にある。少しでも話せる人を増やすことでも効果はある。
もっと話し合う必要があるから 3件	<ul style="list-style-type: none"> ○一回だけでは理解されない。 ○今回は初回なのでもう少し続けたい。知らない人も多いはず。 ○集まって出た意見、要望を実行につなげてほしい。
その他	○子供達に祭りの思い出をつくらせたい。地域交流が必要。新地域には祭りが無い。

感想など

隣人ひろばの内容について 8件	<ul style="list-style-type: none"> ○大学生が入り、今までにない新鮮なミーティングができたと思います。 ○地域にある様々な課題を共有し、解決策を考える中で、今日集まったメンバーの中での共通意識が生まれたと思います。これからの安全で住みよい町づくりのために一人一人が知恵を出し合うことを続けることが、つながりを深め、福祉活動を広げていくことになると思います。 ○地域福祉の取り組みがこんなに山積みが多いのか。いろんな意見が出され、今後の取り組みが大変かと思われませんが、人と人との交流ができた。 ○地域の福祉というよりも、国・中央の福祉の動向が気になります。精華町は良くやっている方だと思います。
改善してほしいこと、提案 11件	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢層の様々な方が話し合った方が色々な問題が出てくると思う。若い年代が少なかったのが残念。 ○KJ法のやり方ですが、もう少しテーマを絞った方が良かったと思った。なんでもは広すぎる。“私でもやれること”を皆でもっと出していけば良かったと思った。人材の発掘、把握。 ○ワークショップは誰でも主体参加として優れているが、運営にはリーダーの役割が大事で、論議の成否に決定的。時間配分の計算も行うことも大事。紹介と問題の出し合いで1時間かかっては議論にならない。1つのテーブルの人数は7人くらいまでが限度では。 ○限られた人たちだけの意見ではなく、アンケート形式で町内全戸に意見を聞くようにした方が良いのでは？実際意見や考えをもっている人でも、都合により今回来れなかった人もいます。 ○目的、背景、下資料等を配布するなど事前に予備知識があれば、掘り下げた意見を出すことができたと思います。会議のための会議という感じがしました。したがって目新しい内容はなかったです。地域住民の意見を聞いたというひとつのステップか？ ○こうした集まりで、将来の住みやすい街づくりの住民の意見として、行政が受け止めてくれることを期待します。

平成 20 年 9 月

精華町民生部福祉課 TEL0774-95-1904 FAX0774-95-3974

精華西中学校区 せいか隣人まつり 報告



平成 20 年 8 月 31 日（日）午後 1:30 から、精華町コミュニティセンターにて、精華西中学校区せいか隣人まつりが開催されました。隣人まつりは住民が主催する懇談会という、精華町にとって初めての試みです。

地域福祉計画策定に関わる作業部会メンバーが呼びかけから当日の運営を行い、地域の方 62 名の他、作業部会委員や事務局 21 名の計 82 名が参加しました。

隣人まつりで出された意見は、作業部会や策定委員会の議論で取り上げ、計画づくりに反映していきます。



第1部 全体会

作業部会のメンバー紹介の後、作業部会長の中谷さんから隣人まつりの趣旨について説明がありました。

その後、精華町の岩井さんから地域福祉計画の目的や内容、スケジュール等について説明がありました。

さらに、参加された方に地域福祉活動のイメージをもってもらうために、精華台地区の片山さんから住民による防犯活動の取り組みについて、東畑地区の浦井さんから子ども見守り隊の活動について、光台地区の金子さんからスクールヘルパーの活動について報告が行われました。



第2部 班ごとに意見交換、発表

8つの班ごとに分かれて、作業部会委員の進行で意見交換を行いました。自己紹介の後、付箋紙と模造紙を使って作業部会メンバーの運営による意見交換を行いました。



「地域福祉を考える上で困っていること、問題だと思うこと」を出し合い、さらにそれらの解決策を考えました。全体で246件の問題点、104件の改善策が出されました（内容が重複するものを含む）。

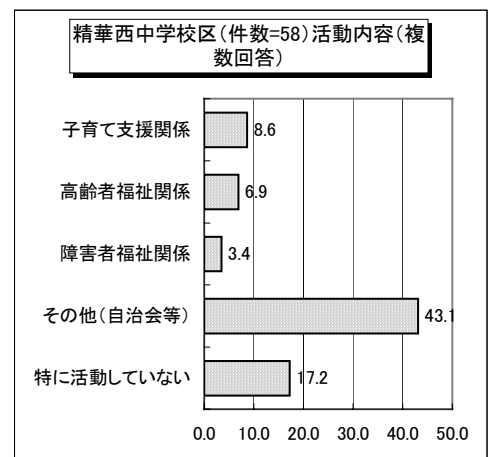
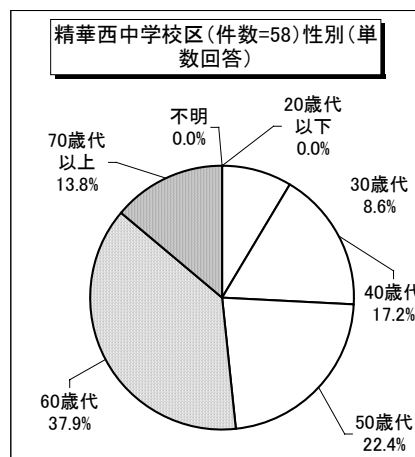
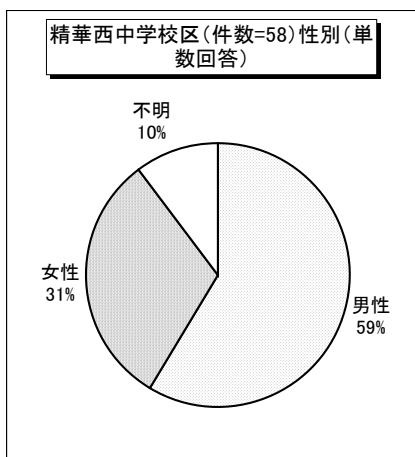
それらの意見について班ごとに発表を行い、精華西中学校区の地域福祉について、問題点や解決策をみんなで共有しました。

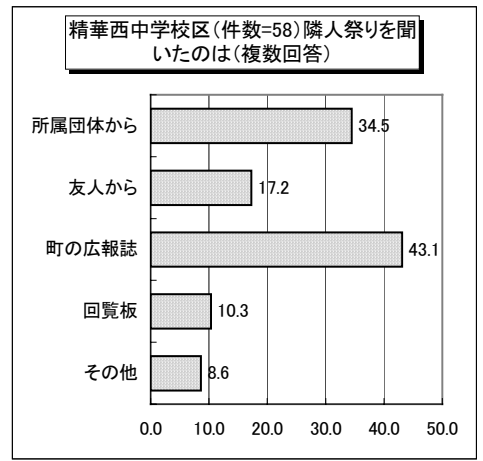
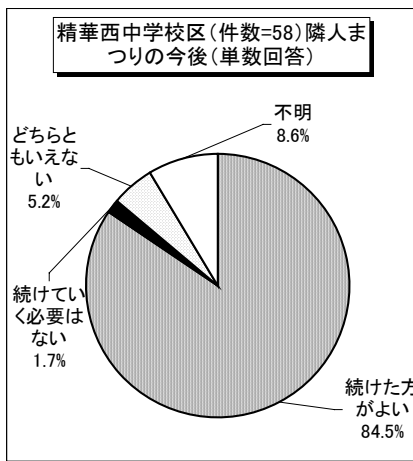
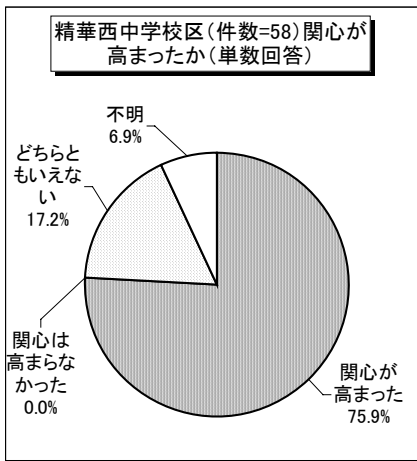
表 出された意見、改善策

分類	件数	主な意見	主な解決策
人のつながりづくり	39	<ul style="list-style-type: none"> ・住民同士のコミュニケーション触れ合う場が少ない ・古くからの住民の方と知り合う機会がない ・町内で子供の遊ぶ声を聞くのが少ない ・自治会に対して関心がない人が多い ・隣近所、特にアパート、マンションの協力が得られない ・高齢者サロンをしているが、参加者が少ない ・あいさつ運動がごく当たり前のできる地域に ・自治会活動で、子供会が別団体となっており一体の活動がやりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・少数世帯の班の合併 ・役員、班長免除制度 ・自治会を中心にネットワークが出来たらと思います ・自治会に加入するメリットを考える ・無理のないリーダーと楽しい企画作り ・県人会をすればおもしろいだろう ・なんでもいいのでつくって交流する場 ・地域に根ざしたボランティアの育成
マナーなど人との関わり	32	<ul style="list-style-type: none"> ・精華町のあいさつ運動の時、各自治会のご協力願えたら有り難いです ・世代層の交流のなさを感じる、それぞれの若・中・高層の考えの違いがはっきりしている ・公園および道路、犬のふん始末ができてないが改善策がないでしょうか？ ・住宅地内での迷惑駐車について、町上げて取りくんでほしいです ・ゴミの問題で通りすがりの人がぼいとすてて行く事 ・ゴミに対する規則が町にない（タバコや缶のポイ捨て） 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいた者からあいさつしていくような地道な活動が必要 ・罰金を入れた条例を作る ・大人が手本を見せること ・犬を野放しにできる公園をつくる ・自治会でステッカーをはって迷惑している事を伝える ・城陽市には市議会で議決された“犬のフン害防止条例”があります
防災・防犯などの安全安心	24	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害等で一番大切なのは、隣近所とのつながり、これが少ないかな？ ・大きな災害が起こった時、家族が離ればなれの時、どうしたら良いか ・子育てをターゲットにした犯罪が増えている ・防犯の連絡網が自治会上層部とどまりず、末端まですみやかにとどく組織づくりを ・若いお母さんの昼、朝のパトロールへの参加がない ・駐輪場（駅前）が夜間暗くてこわい ・光台交番におまわりさんがあまりいない ・163号線に抜ける道路を大型車両が通行している 	<ul style="list-style-type: none"> ・（地域単位）メーリングリストの利用 ・防犯灯の増加（明るくすれば犯罪しにくい） ・消防、自治会による意識啓もう活動（訓練）の実施 ・住民からニーズを上げていく→安全委員へ ・行政へ要望し、交通の実態調査をしてもらい、改善する
環境の保全	28	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草、植木等のカットを早くする ・学校・学校周辺の美化（主に除草） ・各種団体で草刈りの折、缶ゴミ等有り 立札お願い ・ゴミ出しのルールが守られていない（収集されず残る） ・府・町道の草刈りを年に二回してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の一斉清掃だけでは不十分なので、業者委託等も利用しては ・衛生課の方がリサーチして回収して欲しい ・雑草等のカット、5月、8月、の2回実施、役場へ申し入れ ・ゴミ袋に名前を書く ・自治会での話し合い

分類	件数	主な意見	主な解決策
地域ぐるみの子育て支援	20	<ul style="list-style-type: none"> ・育児中の食事支援 ・核家族の父母の就労不安 ・学童保育の有り方の見直しと利用者のニーズの把握に努めてほしい ・子どもの遊び場が限られている ・母親が長期の入院等になった際子供の事が心配、病児保育 ・いつでも気軽に立ち寄れる場所づくり（子育て中のお母さん、子ども、他の年代の方 ・子どもに注意、声かけのできる地域づくり ・親が子育てで勉強する場が少ない ・子供たちへの地域住民の見守り 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会子育て支援センター制度がある ・子育て支援には老人の力を借りるのも一案 ・学童保育、同級生で家に人（親）がいる友達の家と一緒に遊べるようなしくみを考える ・持主に協力してもらい、空地を活用させてもらう ・学校の図書館などの地域開放
地域福祉の担い手の養成	5	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりボランティア～とむずかしく考えないで地域活動をしたい ・ボランティアの担い手が少ない ・ボランティア不足、コーディネーター役がない ・お互いに協力して物事を解決しようとする人が少ない ・各団体（自治会、老人会、子ども会、その他のサークル）との横のつながりが少ない ・男性（働き盛りの）の地域参加が少ない 	—
世代間などの交流	15	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交流、例えば、育児サークルと老人サロンとの交流があればいい ・異世代交流の場が必要では ・意識の無い方や発言できない方の場が必要では 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協の方の仲立ちがあればいいのでは ・意見を自由に出せる web ・自治会を中心に横のつながりをつくる！ ・つなげていく人材を増やす、確保する
情報の共有	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の法的制約と過剰反応により地域が見えにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会でお手伝い（無料）します情報登録制 ・広報活動をしっかりして自ら声をだしてもらおう
計	166		
公共交通の充実	42	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車をもっていないと生活しづらい ・くるりんバスのバス停を増やしてほしい ・くるりんバスを東畑の中心まで延ばしてほしい ・くるりんバスの起点をかしのき苑にして利用者を増やす ・横断歩道や歩行者のための道がない（東畑など） ・朝晩の通勤、通学時間帯の交通ルール無視多発 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査して良い運行を考える ・福祉タクシー事業を提案、実行する ・警察によるパトロールの強化（早朝、夜間含む） ・関係団体で話し合い、役場、警察に要望活動する
公共公益施設の整備	23	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽にスポーツできる施設がほしい ・JR 祝園駅にエレベーター、待合室をつけて欲しい（改札からホームへ） ・精華町として大きなグラウンドがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会でまとめて行政へ要望を出す ・府・町・行政の区別をなくすべき
行政との連携	14	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉予算の拡大 ・福祉事業が統一されて実施されているのか不明に思う ・福祉活動の広報（華創に各団体の活動紹介等） ・地域の民生委員を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民にわかりやすい条例を設けてほしい（啓蒙活動を行う） ・行政と話し合う場を作る
計	79		

参加者アンケートのまとめ





「続けた方がよい」と答えた理由

多くの意見を聞けるから 14 件	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ地域に住んでいても感じることは様々なので、情報共有・意見交換することは住みやすい町を作るために良いと思う。 ○一人一人の小さな声から始めていかなければ大きなものにならない。近隣の皆で仲良く助け合うことが大切。 ○地域の問題を住民自身が発表できる。 ○年代、地域を問わずに話し合いができるので良い。
集まることに意味があるから 9 件	<ul style="list-style-type: none"> ○意識が高くなる。人とのつながりを再考するよい機会になった。 ○とりあえず多くの人が顔見知りになればよい。 ○様々な情報の共有や連帯感の深まり
もっと良い話し合いをしたいから 10 件	<ul style="list-style-type: none"> ○始まりとしてはいいが、範囲が広すぎて漠然とした議論になった。 ○時間的な制約で、皆さんの意見を伺う時間が少なくなって、駆け足となってしまったため。 ○今回の提起内容を深めた議論を進めていく必要あり。 表に出てこない方の呼びかけが必要。 ○切実な問題があり、解決の道を探るべき。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○関心が高まり充実するには続けたらよい。 ○住民活動をする上での最低限必要な場と思う。

感想など

内容について 8 件	<ul style="list-style-type: none"> ○色々な意見が出たように思うが、ほとんどみんなが思っていることは同じだと思った。 ○隣人まつりという意味も良く分からずに参加させていただきましたが、いろいろな福祉、安全活動に関わっている方々のお話が聞けてよかったです。できることから参加させて頂きたいと思いました。 ○朝日新聞でも隣人まつりの事が紹介され、今日参加してその意義的なものがとても実感できました。皆さんのお話を伺っていて、個々の地域に対する願いや、こうしたいという意欲の高さがすごく感じられたので、今後その熱意をくみ上げるネットワーク作りというか住民参加のスタイルをぜひ作り上げていってほしいと思いました。 ○多くの方々の関心がある限り、地域の発展はあると確信をもちました。 ○地域の捉え方が各々で違うと思います。まず自分は地域をどう捉えていて、どうしようと考えているか、もっと知っていきたいです。行政や自治会で用意されている取り組み等もあると思いますが、知らない方、見えていない方、参加できないの方が大切で、そう思うとまず私がどんな隣人になるか…など、意識して考えられる場所、場所作りが必要だと思います。
改善してほしいこと・提案 18 件	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の解決には住民が自らの力を出す方向にしていくと地域連携が取れるのでは。活性化につながる。 ○隣人まつりだからもう少し近所のコミュニティの話とっていましたが…。これでは行政へのお願いが多いようです。 ○内容の方向性が広すぎていまいつかみきれない。回数を増やし、方向性を絞ればいい。 ○もう少し年代別に住民が集まってもらいたい。中学、高校、20代、30代...とテーマを決めて話し合うことも良いかも。年に2回はしてもらいたい。住民がいつも自分の町をどのようにしたいのか考える場の提供をしてほしい。 ○今回の参加は自治会や地域に関心のある人が多かったと思う。今後は関心の低い層や中間層に対する意識付けが必要。自治会単位などの小単位で開催すればどうか？警察署、消防署、行政がオブザーバーで出席が必要。

6 アンケート調査結果の概要

(1) 調査の目的

精華町地域福祉計画策定にあたって、地域福祉に関わる住民の意識や活動実態、施策に対する要望を把握することにより、基礎資料として活用することを目的としています。

(2) 調査方法及び回収状況

①調査対象

平成 20 年 4 月現在の住民基本台帳に記載されている方を対象者として実施しました。

②調査期間 平成 20 年 7 月 18 日（金）～8 月 1 日（金）

③調査方法 郵送配布、郵送回収方式

④調査対象数と回収状況

調査対象数 (A)	2,000 人
回収数 (B)	1,051 人
回収率 (B) ÷ (A)	52.6 %

⑤調査データの表示について

- 構成比の%は小数点第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計は 100%にならない場合があります。
 - 複数回答の構成比は回答数を回答者数（件数）で割っているため、内訳の合計は 100%を超えることとなります。
- グラフ上の「不明」には「無回答」の件数を含んでいます。

(3) 調査結果

①回答者の概要

高齢者の声が多く反映されていることに留意する必要があります

- 回答者の性別は男：女が概ね4：6となっており、年齢別では「60歳代以上（52.3%）」が約半数を占めています。
- 回答者の居住年数は、「10年未満（37.8%）」「10～20年未満（24.0%）」「20年以上（37.3%）」となっています。居住年数10年未満ないしは20年以上の新旧住民がそれぞれ4割弱を占めています。
- 町全体の人口と回答者を比較すると、20、30歳代の回答者が少なく、一方で70歳代以上の回答者が多いことから、回答者全体の傾向を見る場合には、若い世代の声が少なく、高齢者の声が多く反映されていることに配慮が必要です。

精華西中は1/4が居住年数5年未満の新しい住民となっています

- 中学校区別に居住年数をみると、精華西中は回答者の約6割が「10年未満（62.9%）」、概ね1/4が「5年未満（22.8%）」となっています。

問1 あなたの性別についてお答えください。

問2 あなたの年齢についてお答えください。

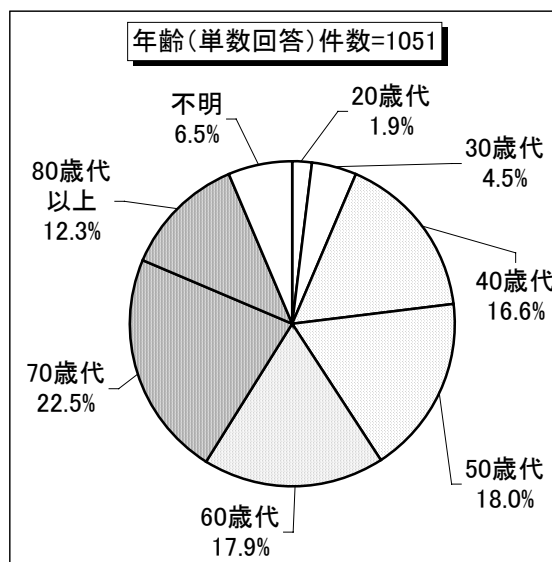
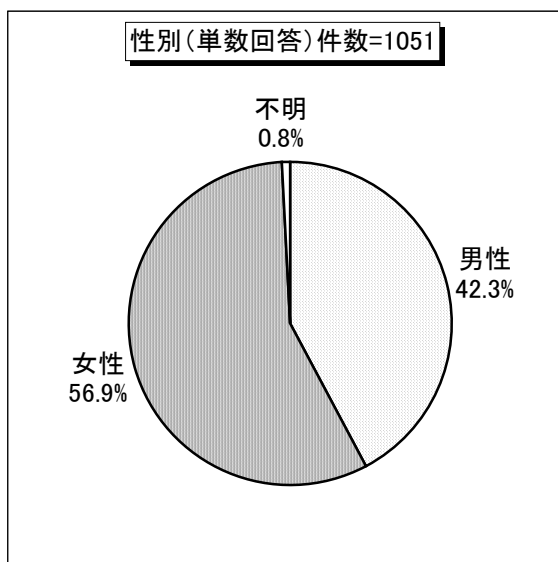


表 町全体と回答者の比較

		20歳代未満	20歳代以上	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	不明
精華町全体	35,798	8,475	27,323	3,756	5,817	5,111	4,921	4,136	2,289	1,293	—
平成20年4月1日	-	-	100.0%	13.7%	21.3%	18.7%	18.0%	15.1%	8.4%	4.7%	—
アンケート調査回答者	1,051	-	1,051	20	47	174	189	188	236	129	68
	100.0%	-	100.0%	1.9%	4.5%	16.6%	18.0%	17.9%	22.5%	12.3%	6.5%

問3 あなたの精華町における居住年数についてお答えください。

問4 あなたのお住まいの地区についてお答えください。

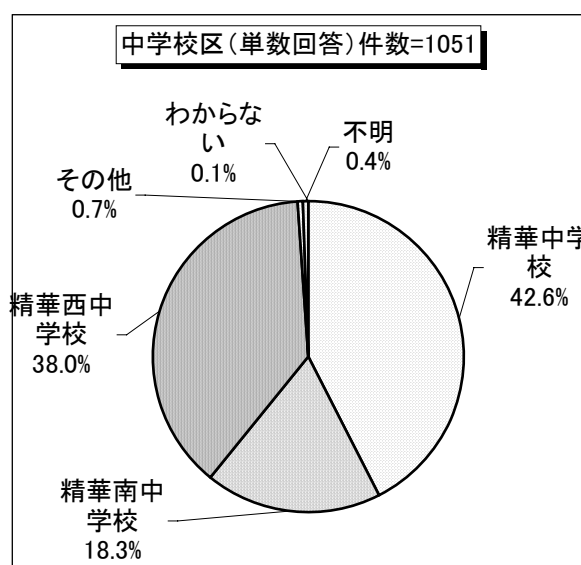
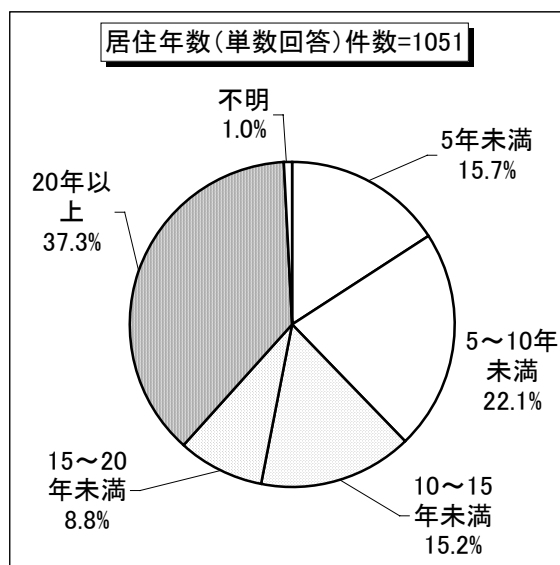


表 居住地区(中学校区)×居住年数

	全体	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	不明
合計	1051	165	232	160	92	392	10
	100.0	15.7	22.1	15.2	8.8	37.3	1.0
精華中	448	46	30	40	41	287	4
	100.0	10.3	6.7	8.9	9.2	64.1	0.9
精華南中	192	23	41	40	30	56	2
	100.0	12.0	21.4	20.8	15.6	29.2	1.0
精華西中	399	91	160	80	21	44	3
	100.0	22.8	40.1	20.1	5.3	11.0	0.8
不明	12	5	1	0	0	5	1
	100.0	41.7	8.3	0.0	0.0	41.7	8.3

②近所の支えあいの状況

身近な町内会ないしは精華町全体が地域の範囲として認識されています

- 住民が考える地域の範囲は、「町内会、自治会（46.9%）」が最も多く、「精華町全体（24.5%）」が続いています。
- 小学校区、中学校区の圏域を地域と考える人は多くなく（16.6%）、より身近な町内会ないしは精華町全体が、地域の範囲として認識されています。

居住年数5年未満の約4割が手助けをお願いできる人がいません

精華西中は1/4が居住年数5年未満であり孤立化のおそれがあります

- 約半数が「親しいお宅がある（46.1%）」一方で、「近所づきあいはほとんどない（5.9%）」人がおり、平成14年度調査と同様の傾向にあります。
- 困っている人がいたら「手助けしたい（78.7%）」が8割弱ある一方で、約1/4の人は「手伝ってもらえる近所の人がない（23.5%）」と答えています。
- なかでも居住年数5年未満の回答者では、約2割が「近所づきあいはほとんどない（20.0%）」、約4割が「手助けをお願いできる人がいない（41.2%）」と答えています。
- 精華西中は回答者の概ね1/4が居住年数5年未満であり、地域において孤立化のおそれがあります。

手助けをお願いしたいことでは緊急災害時の援助が突出しています

- 手助けをお願いしたいことは「緊急災害時援助（53.1%）」が突出しています。
- その他に「家族が病気の時の援助（21.5%）」「高齢者の安否確認、声かけ（20.6%）」「子どもの安全確保、声かけ（19.6%）」の回答があります。

問5 あなたの考える「地域」の範囲をお答えください。

問6 あなたは隣近所とどのようなおつきあいをされていますか。

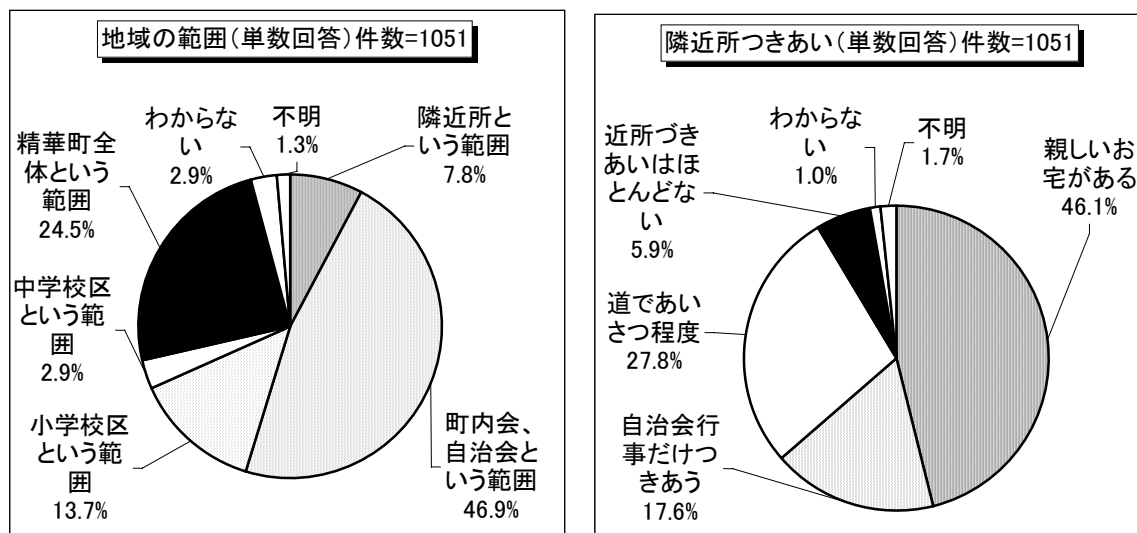


表 隣近所とのつきあい（平成14年度調査との比較）

	全体	親しくおつきあいの お宅がある	自治会や隣近所の行事 だけつきあう	道で会えばあいさつを する程度	近所づきあいはほとん どない
今回の調査 （わからない、不明を除く）	1023	484	185	292	62
	100.0	47.3	18.1	28.5	6.1
平成14年度調査	845	498	100	217	30
	100.0	58.9	11.8	25.7	3.6

表 居住年数×隣近所とのつきあい

	全体	親しくおつきあいの お宅がある	自治会や隣近所の行事 だけつきあう	道で会えばあいさつを する程度	近所づきあいはほとん どない	わからない	不明
合計	1051	484	185	292	62	10	18
	100.0	46.1	17.6	27.8	5.9	1.0	1.7
5年未満	165	39	28	59	33	5	1
	100.0	23.6	17.0	35.8	20.0	3.0	0.6
5～10年未満	232	102	49	69	7	2	3
	100.0	44.0	21.1	29.7	3.0	0.9	1.3
10～15年未満	160	58	32	57	9	1	3
	100.0	36.3	20.0	35.6	5.6	0.6	1.9
15～20年未満	92	42	20	26	3	0	1
	100.0	45.7	21.7	28.3	3.3	0.0	1.1
20年以上	392	240	56	76	10	2	8
	100.0	61.2	14.3	19.4	2.6	0.5	2.0
不明	10	3	0	5	0	0	2
	100.0	30.0	0.0	50.0	0.0	0.0	20.0

問7 あなたは隣近所で困っている人がいたら、手助けしたいと思いますか。

問8 あなたは困った時に、手助けをお願いできる近所の人がありますか。

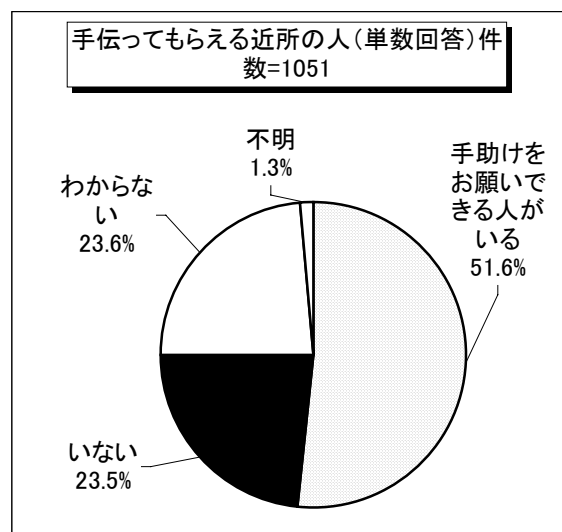
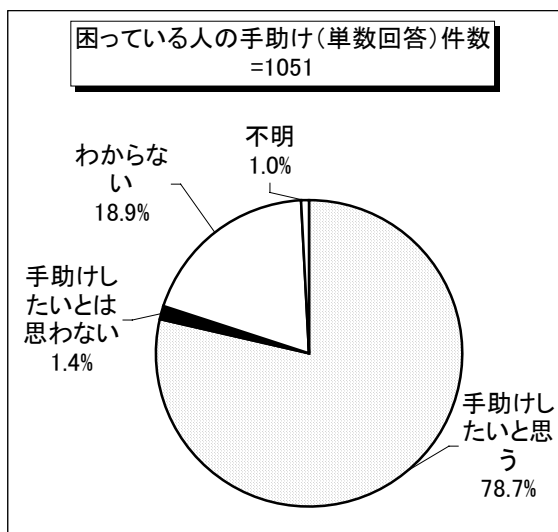


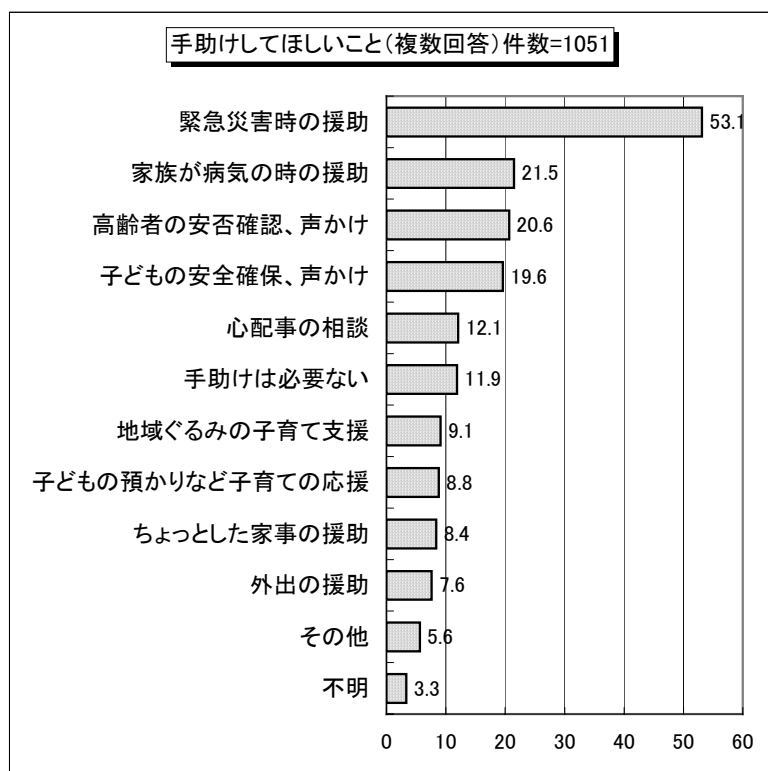
表 居住地区（中学校区）×手伝ってもらえる近所の人

	全体	手助けをお願いできる 人がいる	いない	わからない	不明
合計	1051 100.0	542 51.6	247 23.5	248 23.6	14 1.3
精華中	448 100.0	263 58.7	77 17.2	97 21.7	11 2.5
精華南中	192 100.0	89 46.4	48 25.0	53 27.6	2 1.0
精華西中	399 100.0	184 46.1	117 29.3	97 24.3	1 0.3
不明	12 100.0	6 50.0	5 41.7	1 8.3	0 0.0

表 居住年数×手伝ってもらえる近所の人

	全体	手助けをお願いできる 人がいる	いない	わからない	不明
合計	1051 100.0	542 51.6	247 23.5	248 23.6	14 1.3
5年未満	165 100.0	49 29.7	68 41.2	48 29.1	0 0.0
5～10年未満	232 100.0	112 48.3	69 29.7	48 20.7	3 1.3
10～15年未満	160 100.0	72 45.0	46 28.8	39 24.4	3 1.9
15～20年未満	92 100.0	36 39.1	17 18.5	38 41.3	1 1.1
20年以上	392 100.0	266 67.9	47 12.0	72 18.4	7 1.8
不明	10 100.0	7 70.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0

問9 あなたが手助けをお願いしたいことについてお答えください。



③高齢者世帯、子育て世帯の状況

4割弱は高齢者がいる世帯、その約2割が独居高齢者、約4割は夫婦共に65歳以上です

- 回答者全体の4割弱が「世帯に高齢者がいる (36.7%)」と答えています。
- 高齢者がいる世帯のうち約2割が「高齢者のひとり暮らし (19.7%)」であり、約4割は「夫婦共に65歳以上 (46.1%)」です。

問10 あなたと一緒に暮らす高齢者(65歳以上)の方についてお答えください。

10-1 あなたを含めて世帯に高齢者(65歳以上)の方がおられますか。

10-2 あなたと一緒に暮らす世帯構成についてお答えください。

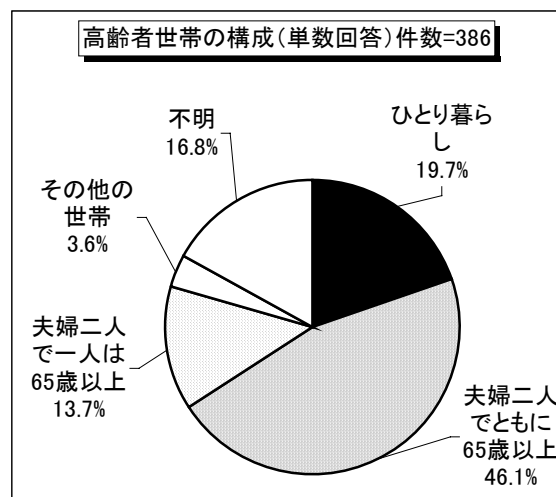
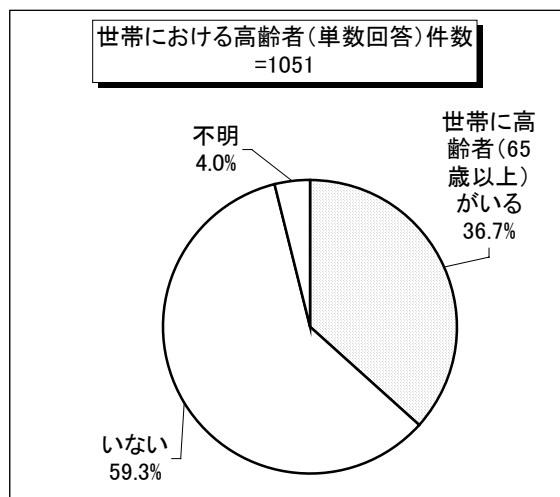


表 居住地区（中学校区）×世帯構成（高齢者世帯）

	全体	ひとり暮らし（あなたのみ）	夫婦二人暮らし（あなたとも65歳以上）	夫婦二人暮らし（一人で65歳以上）	その他の世帯	不明
合計	1051 100.0	76 19.7	178 46.1	53 13.7	14 3.6	65 16.8
精華中	448 100.0	40 19.3	100 48.3	23 11.1	10 4.8	34 16.4
精華南中	192 100.0	16 23.2	34 49.3	9 13.0	0 0.0	10 14.5
精華西中	399 100.0	20 18.3	43 39.4	21 19.3	4 3.7	21 19.3
不明	12 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

2 割弱は子育て世帯で、その8割弱が子育ての応援が必要な核家族です

- 回答者全体の2割弱「小学生までの子どもがいる（17.3%）」と答えています。
- 小学生までの子どもがいる子育て世帯のうち8割弱は「核家族（78.0%）」であり、子育ての応援が求められています。

問 11 あなたと一緒に暮らす子どもについてお答えください。

11-1 あなたの世帯に小学生までの子どもがおられますか。

11-2 世帯構成についてお答えください。

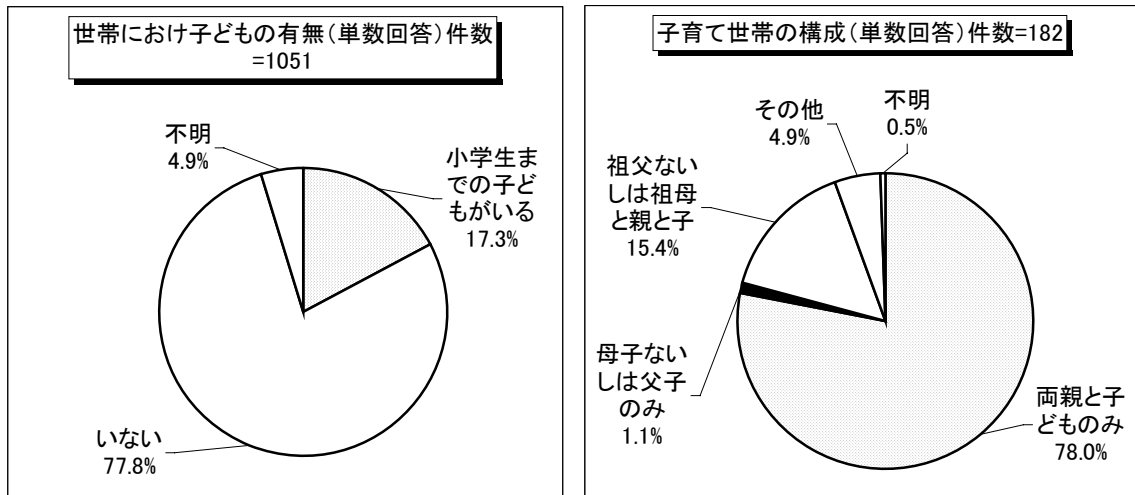


表 居住地区（中学校区）×世帯構成（子育て世帯）

	全体	両親と子どものみ	母子ないしは父子のみ	祖父ないしは祖母と親子	その他	不明
合計	1051 100.0	142 78.0	2 1.1	28 15.4	9 4.9	1 0.5
精華中	448 100.0	44 80.0	0 0.0	7 12.7	3 5.5	1 1.8
精華南中	192 100.0	16 61.5	0 0.0	8 30.8	2 7.7	0 0.0
精華西中	399 100.0	80 81.6	2 2.0	13 13.3	3 3.1	0 0.0
不明	12 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0

④困った時の相談先等

若い世代ほど相談先を知らない傾向がありますが、情報の入手先は多様です

- 20、30歳代の約5割、40、50歳代の約4割が「困ったときの相談先を知らない」と答えています。
- 20、30歳代では、「精華町の広報誌（35.8%）」「家族・親族（38.8%）」「インターネット（35.8%）」のように、情報の入手先は多様です。一方、60歳以上では「精華町の広報誌（76.1%）」が8割弱を占めています。

問12 あなたは、健康や福祉に関する情報をどこから得ていますか。

問13 あなたは、生活や介護などで困った時に、どこに相談すればいいか知っていますか。

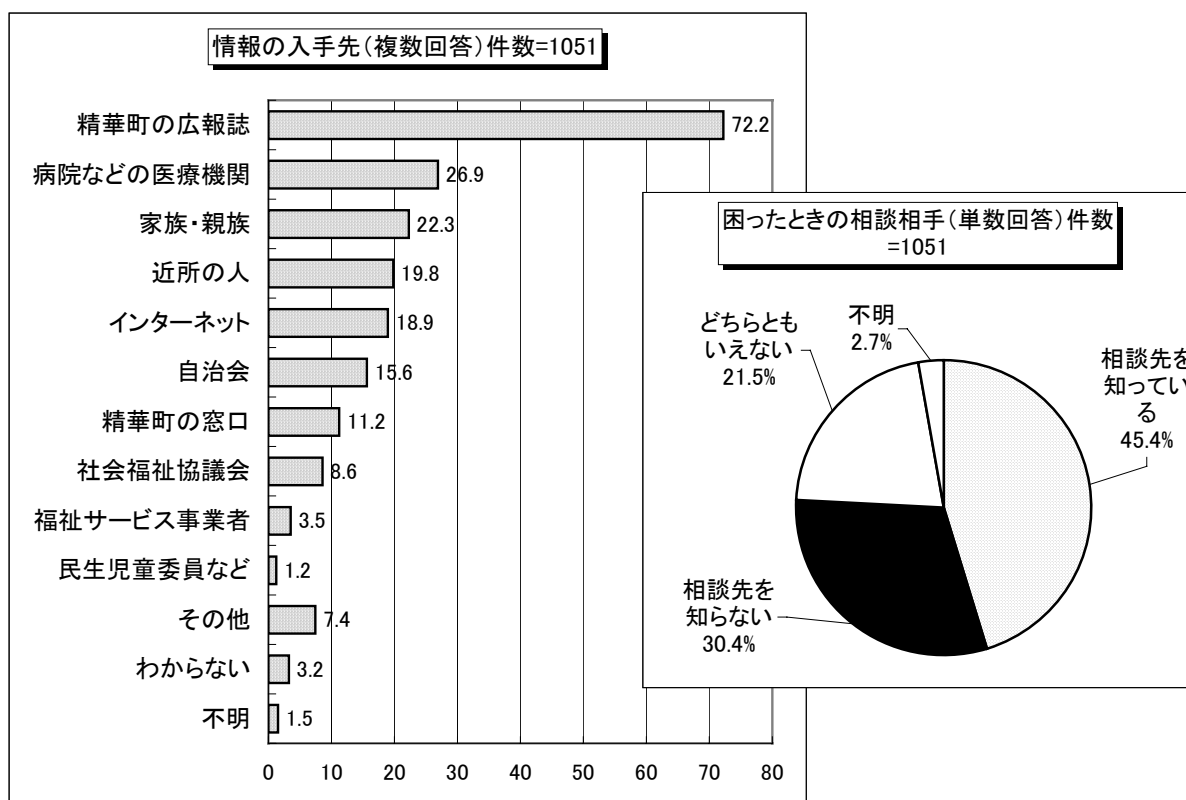


表 年齢(3区分) × 情報の入手先

	全体	精華町の広報誌	病院などの医療機関	家族・親族	近所の人	インターネット	自治会
合計	1051 100.0	759 72.2	283 26.9	234 22.3	208 19.8	199 18.9	164 15.6
20、30歳代	67 100.0	24 35.8	6 9.0	26 38.8	5 7.5	24 35.8	4 6.0
40、50歳代	363 100.0	280 77.1	72 19.8	62 17.1	69 19.0	107 29.5	51 14.0
60歳代以上	553 100.0	421 76.1	183 33.1	121 21.9	122 22.1	65 11.8	99 17.9

表 年齢（3区分）×困った時の相談先の有無

	全体	相談先を知っている	相談先を知らない	どちらともいえない	不明	非該当
合計	1051 100.0	477 45.4	320 30.4	226 21.5	28 2.7	0
20、30歳代	67 100.0	15 22.4	34 50.7	18 26.9	0 0.0	0
40、50歳代	363 100.0	112 30.9	151 41.6	99 27.3	1 0.3	0
60歳代以上	553 100.0	314 56.8	120 21.7	103 18.6	16 2.9	0
不明	68 100.0	36 52.9	15 22.1	6 8.8	11 16.2	0

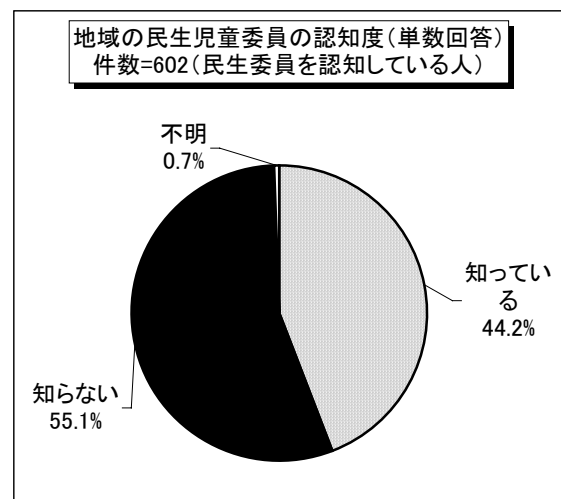
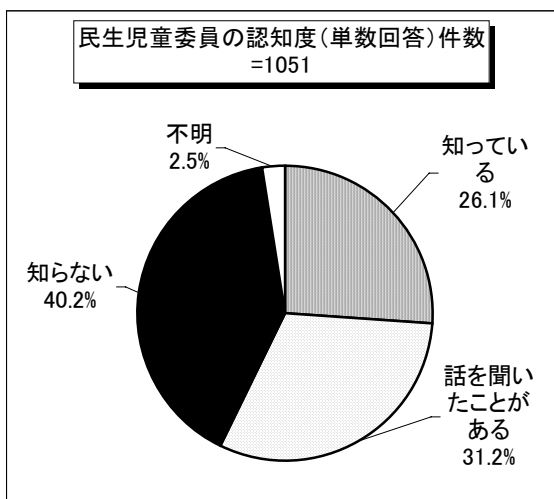
約5割は相談先である民生児童委員を認知しており、うち4割は地域の委員を知っています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の約5割は「民生児童委員を知っている+話を聞いたことがある（57.3%）」と答えています。
- 民生児童委員を知っている、聞いたことがある回答者について、自分の地域の民生児童委員について約4割は「地域の委員を知っている（44.2%）」と答えています。

問14 あなたの地域の民生児童委員さんについてお答えください

14-1 民生児童委員の役割や活動をご存じですか。

14-2 あなたは、あなたの地域の民生児童委員さんをご存じですか。



⑤自治会等の地域組織について

過半数が地域団体の活動に参加していますが、若い世代は参加に消極的です

- つきあい程度を含めると、回答者全体の過半数（55.1%）が自治会などの地域団体に参加をしています。
- 一方で、約 1/4 は「全く参加していない（24.8%）」と答えています。
- 回答者全体の約 4 割は自治会などの地域団体を必要（大いに必要+どちらかといえば必要 44.7%）と答えています。
- 20、30 歳代では地域団体の必要性は約 2 割（20.9%）にとどまっています。

問 15 地域団体の活動への参加についてお答えください。

15-1 あなたは地域団体の活動にどの程度参加されていますか。

15-2 地域団体の活動に参加しない理由についてお答えください。

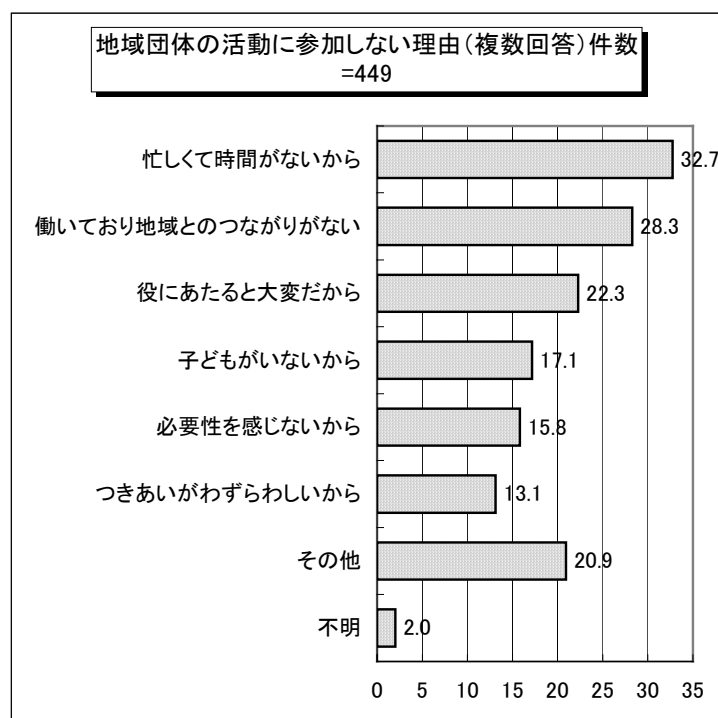
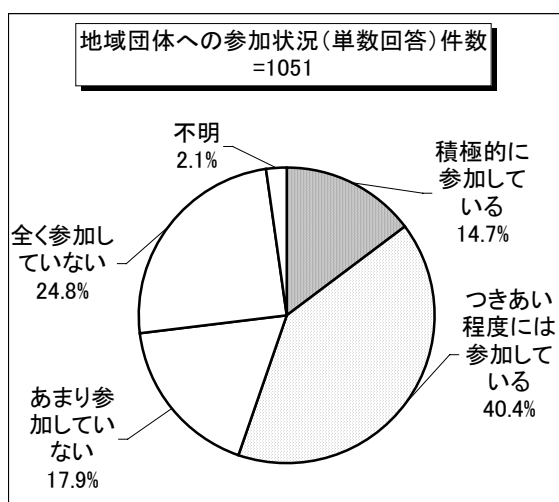


表 居住地区（中学校区）×地域団体への参加状況

	全体	積極的に参加している	つきあい程度には参加している	あまり参加していない	全く参加していない	不明
合計	1051 100.0	155 14.7	425 40.4	188 17.9	261 24.8	22 2.1
精華中	448 100.0	68 15.2	167 37.3	69 15.4	127 28.3	17 3.8
精華南中	192 100.0	30 15.6	77 40.1	39 20.3	44 22.9	2 1.0
精華西中	399 100.0	57 14.3	178 44.6	79 19.8	83 20.8	2 0.5
不明	12 100.0	0 0.0	3 25.0	1 8.3	7 58.3	1 8.3

15-3 地域団体の活動について、どのような感想をおもちですか。

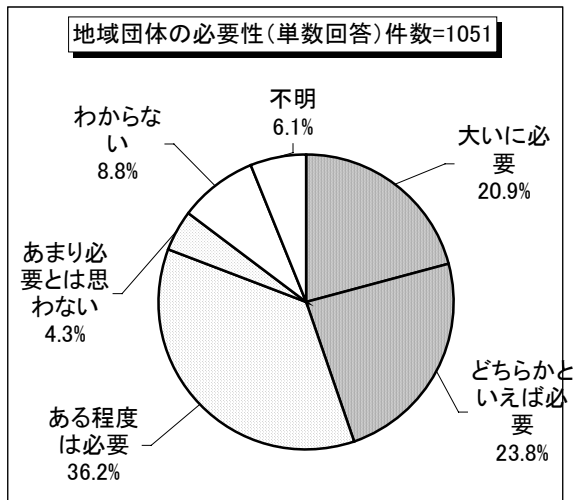


表 年齢（3区分）×地域団体の必要性

	全体	大いに必要	どちらかといえば必要	ある程度は必要	あまり必要とは思わない	わからない	不明
合計	1051 100.0	220 20.9	250 23.8	380 36.2	45 4.3	92 8.8	64 6.1
20、30歳代	67 100.0	5 7.5	9 13.4	26 38.8	0 0.0	24 35.8	3 4.5
40、50歳代	363 100.0	54 14.9	93 25.6	160 44.1	20 5.5	26 7.2	10 2.8
60歳代以上	553 100.0	143 25.9	138 25.0	177 32.0	23 4.2	34 6.1	38 6.9
不明	68 100.0	18 26.5	10 14.7	17 25.0	2 2.9	8 11.8	13 19.1

⑥ボランティア活動やNPO活動について

1/4 はボランティアやNPO 活動の経験があり、若い世代を中心に 3 割弱は参加意向があります

- 回答者全体の 1/4 (25.3%) がボランティアやNPO への参加経験があります。また、回答者全体の約 3 割 (33.9%) に今後の参加意向があります (平成 14 年度調査では 9.2%が「参加している」と答えています)。
- 20、30 歳代でも約 2 割 (20.9%) に参加経験があります。また、3 割弱 (28.3%) に今後の参加意向があります。

問 16 ボランティア活動やNPO 活動への参加についてお答えください。

16-1 あなたはボランティア活動やNPO 活動に参加されたことがありますか。

16-2 ボランティア活動やNPO 活動に活動に参加しない理由についてお答えください。

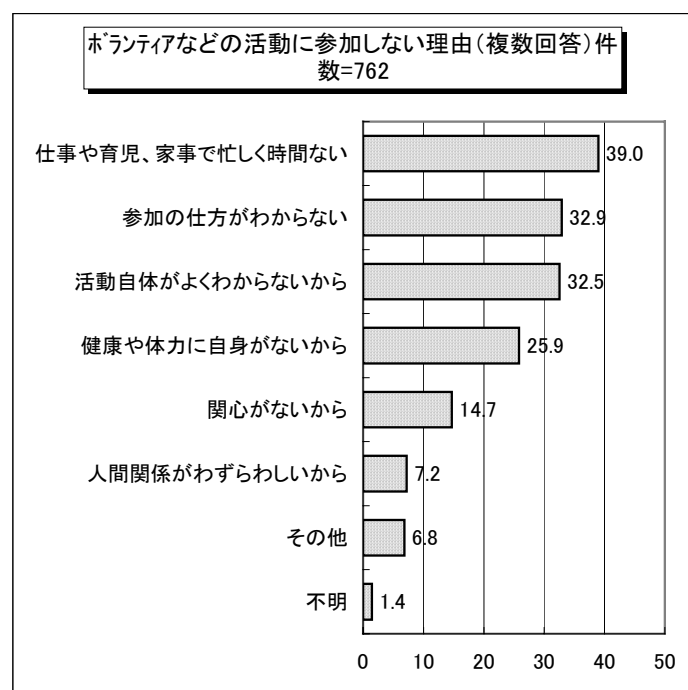
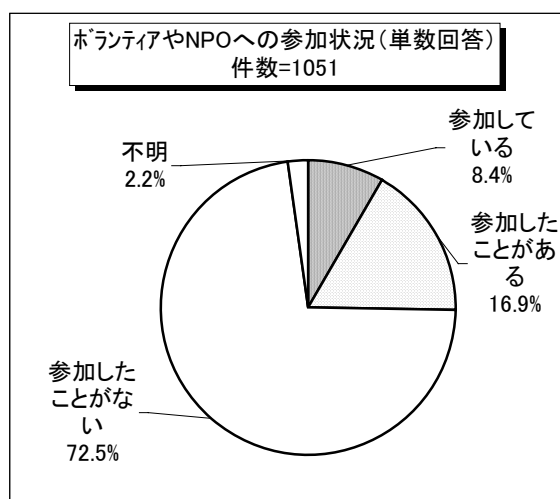


表 年齢 (3 区分) × ボランティアやNPO への参加状況

	全体	参加している	参加したことがある	参加したことがない	不明
合計	1051 100.0	88 8.4	178 16.9	762 72.5	23 2.2
20、30 歳代	67 100.0	3 4.5	11 16.4	53 79.1	0 0.0
40、50 歳代	363 100.0	16 4.4	57 15.7	290 79.9	0 0.0
60 歳代以上	553 100.0	63 11.4	102 18.4	375 67.8	13 2.4
不明	68 100.0	6 8.8	8 11.8	44 64.7	10 14.7

16-3 あなたは今後、ボランティアやNPO活動に参加したいと思われませんか。

16-4 ボランティアやNPOの活動を発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いますか。

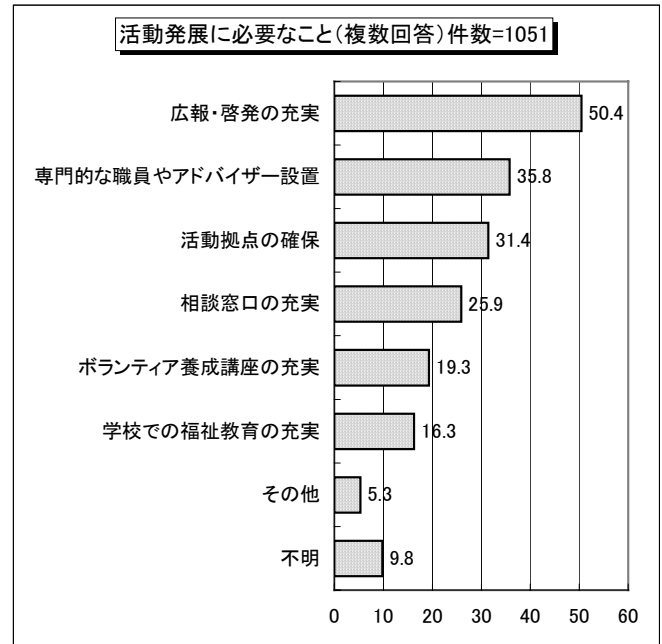
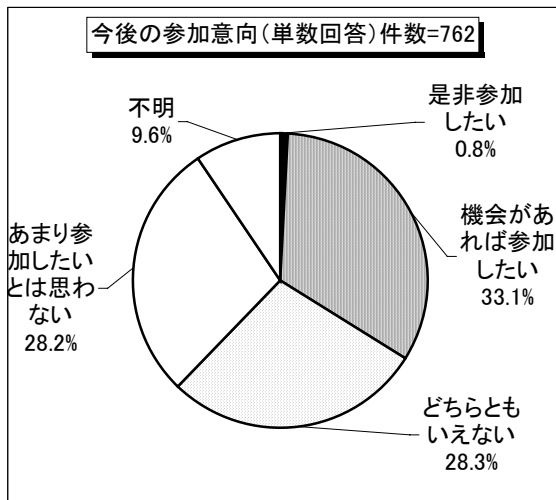


表 年齢(3区分) × 今後の参加意向

	全体	是非参加したい	機会があれば参加したい	あまり参加したいとは思わない	どちらともいえない	不明
合計	1051 100.0	6 0.8	252 33.1	215 28.2	216 28.3	73 9.6
20、30歳代	67 100.0	0 0.0	15 28.3	18 34.0	17 32.1	3 5.7
40、50歳代	363 100.0	2 0.7	108 37.2	81 27.9	70 24.1	29 10.0
60歳代以上	553 100.0	3 0.8	124 33.1	102 27.2	111 29.6	35 9.3
不明	68 100.0	1 2.3	5 11.4	14 31.8	18 40.9	6 13.6

⑦精華町社会福祉協議会の活動について

ア. 町社協や小地域福祉活動の認知度

7割弱は町社協を認知しており、4割弱は小地域福祉活動を知っています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の7割弱は「社協を知っている+話を聞いたことがある(68.0%)」と答えています。平成14年度調査では認知度が82.6%であったのに対して、今回調査では69.7%となっています。
- 同様に回答者の4割弱は「小地域福祉活動を知っている+話を聞いたことがある(38.2%)」と答えています。

問17 あなたは社会福祉協議会について聞いたことがありますか。

問18 あなたは小地域福祉活動について聞いたことがありますか。

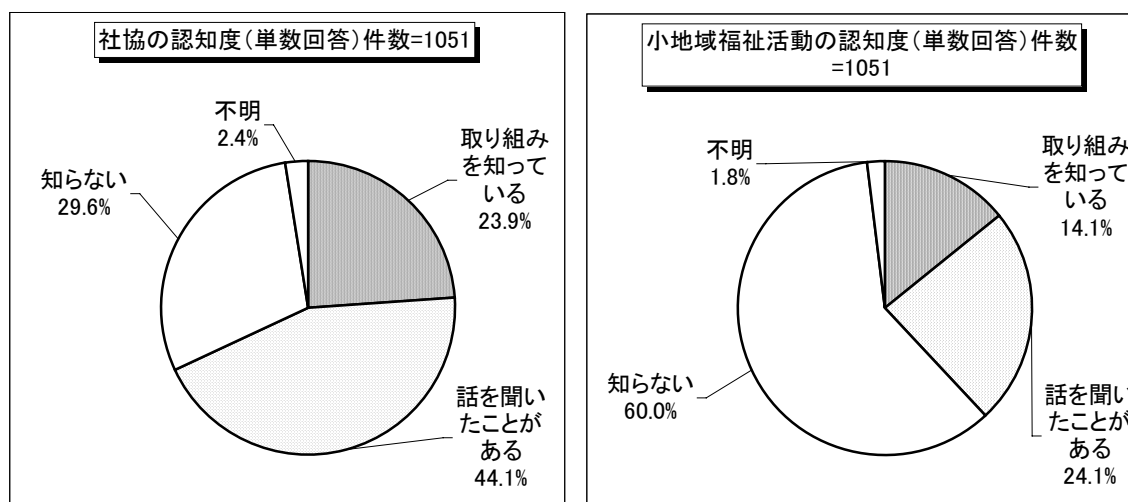


表 社協の認知度(平成14年度調査との比較)

	全体	全体(不明を除く)	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
今回の調査	1051	1026	251	464	311	25
	100	100.0	24.5	45.2	30.3	—
平成14年度調査	791	—	236	418	137	—
	100	—	29.8	52.8	17.3	—

表 年齢(3区分)×社協の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051	251	464	311	25
	100.0	23.9	44.1	29.6	2.4
20、30歳代	67	2	15	50	0
	100.0	3.0	22.4	74.6	0.0
40、50歳代	363	53	166	143	1
	100.0	14.6	45.7	39.4	0.3
60歳代以上	553	181	255	105	12
	100.0	32.7	46.1	19.0	2.2
不明	68	15	28	13	12
	100.0	22.1	41.2	19.1	17.6

表 居住地区（中学校区）×社協の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明	非該当
合計	1051 100.0	251 23.9	464 44.1	311 29.6	25 2.4	0
精華中	448 100.0	126 28.1	187 41.7	122 27.2	13 2.9	0
精華南中	192 100.0	41 21.4	86 44.8	61 31.8	4 2.1	0
精華西中	399 100.0	83 20.8	187 46.9	122 30.6	7 1.8	0
不明	12 100.0	1 8.3	4 33.3	6 50.0	1 8.3	0

イ. 小地域福祉委員会、高齢者ふれあいサロン、子育てサロンの認知度

約 4 割は小地域福祉委員会を認知しています

- 聞いたことがあるを併せると、回答者全体の約 4 割は「小地域福祉委員会を知っている＋話を聞いたことがある (39.1%)」と答えています (平成 20 年 1 月現在、精華中学校区の 3 地区及び西中学校区の 2 地区で委員会活動が行われています)。
- 年齢別にみると 20～50 歳代の 7、8 割には知られていません。

問 19 小地域福祉委員会、高齢者ふれあいサロン、子育てサロンについてお答えください。

19-1 あなたは小地域福祉委員会について聞いたことがありますか。

問 19-2 あなたは高齢者ふれあいサロンについて聞いたことがありますか。

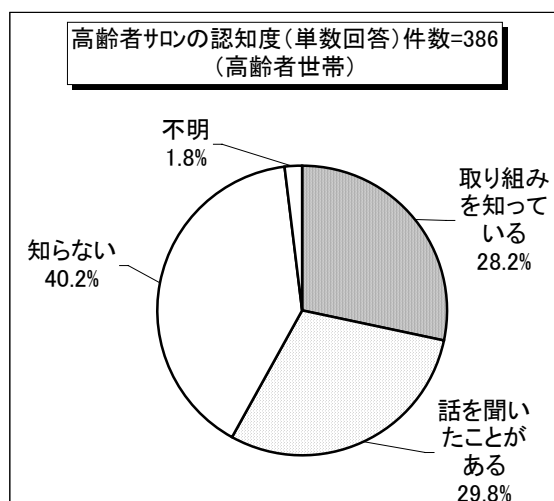
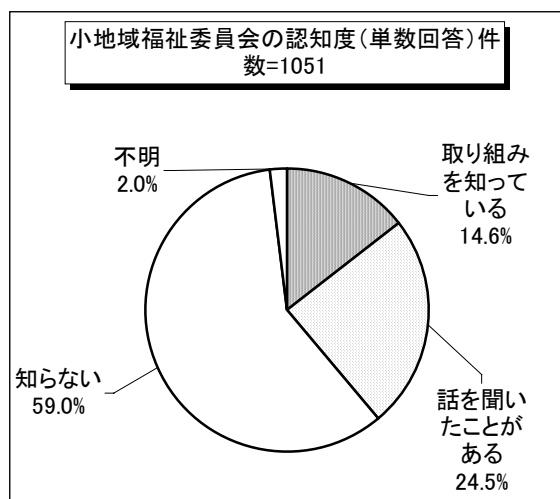


表 年齢(3区分)×小地域福祉活動の認知度

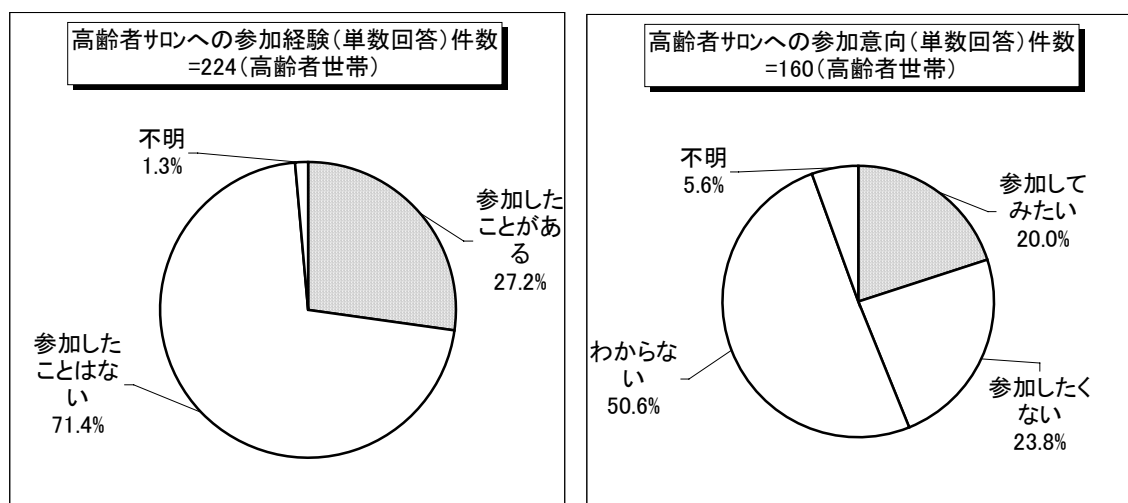
	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051 100.0	148 14.1	253 24.1	631 60.0	19 1.8
20、30歳代	67 100.0	2 3.0	6 9.0	59 88.1	0 0.0
40、50歳代	363 100.0	23 6.3	67 18.5	270 74.4	3 0.8
60歳代以上	553 100.0	110 19.9	160 28.9	276 49.9	7 1.3
不明	68 100.0	13 19.1	20 29.4	26 38.2	9 13.2

表 居住地区(中学校区)×小地域福祉委員会の認知度

	全体	取り組みを知っている	話を聞いたことがある	知らない	不明
合計	1051 100.0	153 14.6	257 24.5	620 59.0	21 2.0
精華中	448 100.0	91 20.3	117 26.1	225 50.2	15 3.3
精華南中	192 100.0	21 10.9	28 14.6	143 74.5	0 0.0
精華西中	399 100.0	41 10.3	109 27.3	244 61.2	5 1.3
不明	12 100.0	0 0.0	3 25.0	8 66.7	1 8.3

問 19-3 あなたは高齢者ふれあいサロンに参加したことがありますか。

問 19-4 あなたは高齢者ふれあいサロンに参加してみたいと思われませんか。



高齢者世帯の6割弱は高齢者サロンを認知しており、未参加層の約2割に参加意向があります

- 聞いたことがあるをあわせると、高齢者世帯の6割弱は「高齢者サロンを知っている+話を聞いたことがある(58.0%)」と答えています(平成20年1月現在、精華中学校区の9地区、南中学校区の3地区、西中学校区の4地区で高齢者サロンが行われています)。
- 高齢者世帯の約1/4は「参加したことがある(27.2%)」と答えており、参加したことがない人の約2割に「参加してみたい(20.0%)」意向があります。

子育て世帯の約6割は小地域福祉委員会を認知しています

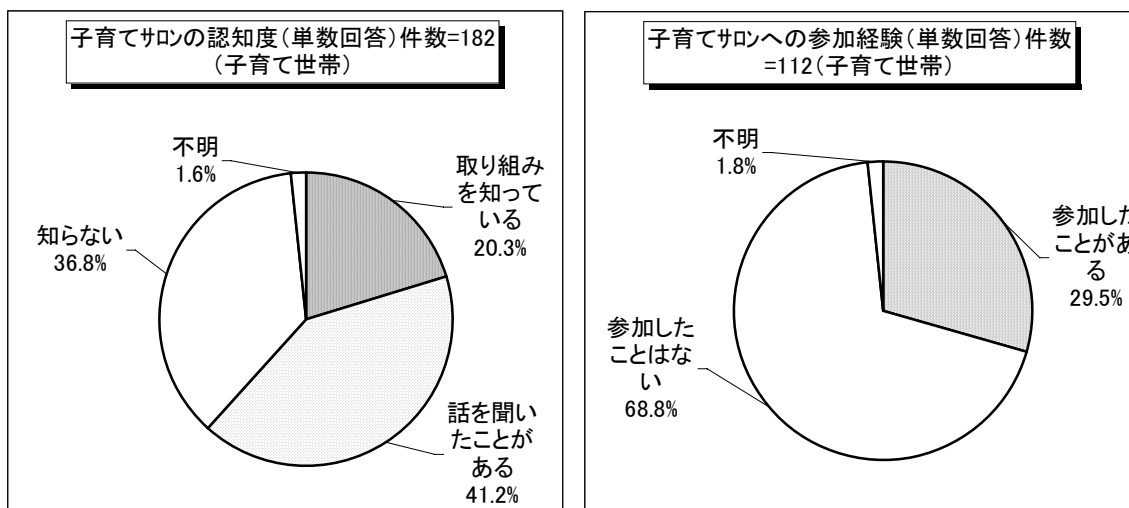
- 聞いたことがあるを併せると、子育て世帯の約6割は「子育てサロンを知っている+話を聞いたことがある(61.5%)」と答えています(平成20年1月現在、精華中学校区の1地区、南中学校区の4地区、西中学校区の14地区で子育てサロンが行われています)。

子育て世帯の3割弱は子育てサロンを認知しており、未参加層の1/4に参加意向があります

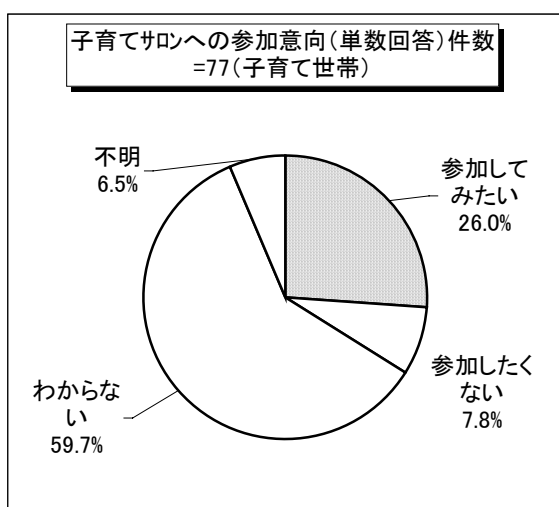
- 同様に子育て世帯の約3割は「参加したことがある(29.5%)」と答えており、参加したことがない人の約2割は「参加してみたい(26.0%)」と答えています。

問 19-5 あなたは子育てサロンについて聞いたことがありますか。

問 19-6 あなたは子育てサロンに参加したことがありますか。



問 19-7 あなたは子育てサロンに参加してみたいと思われませんか。

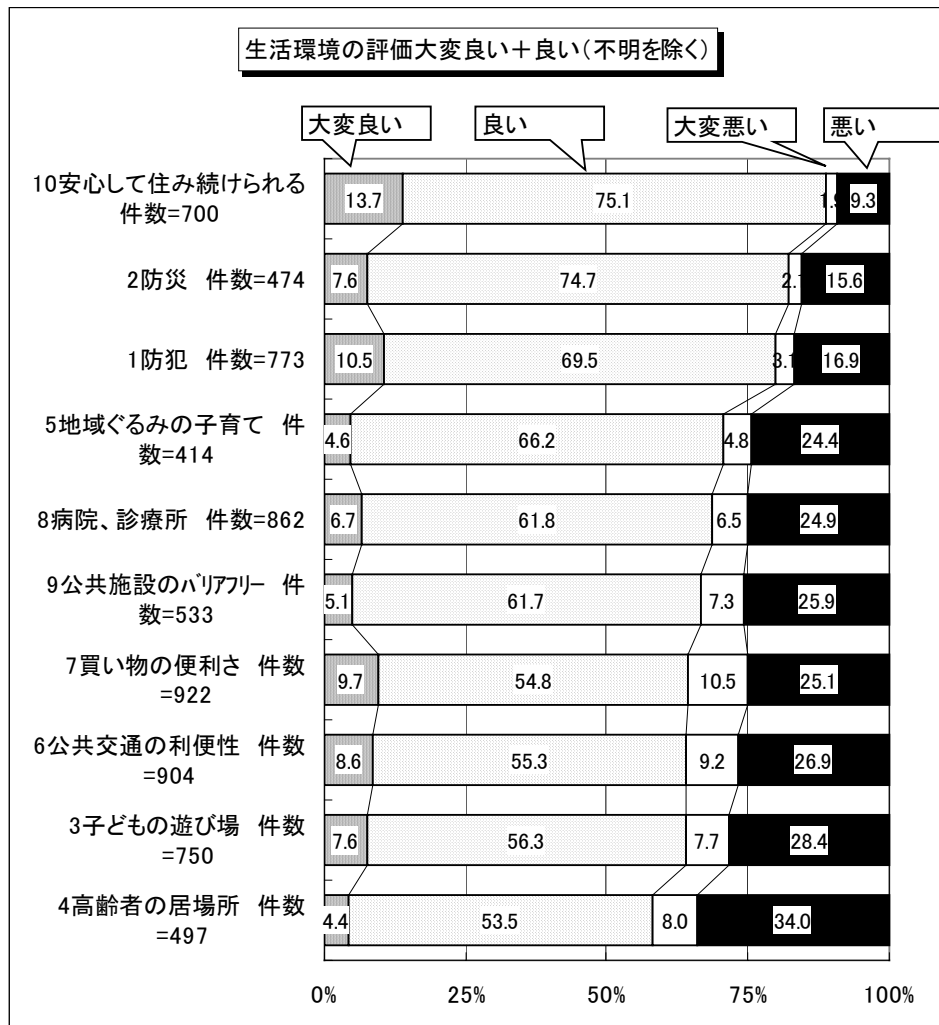


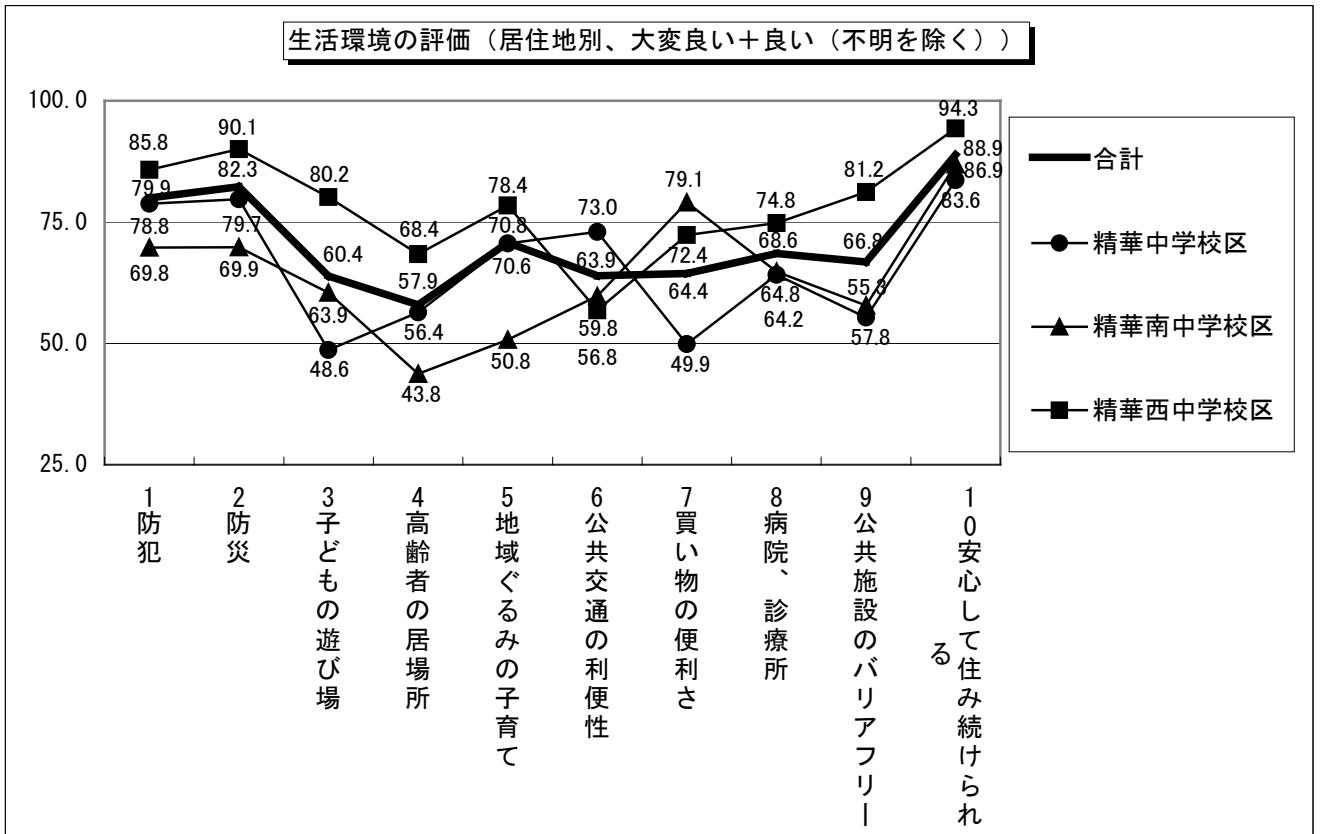
⑧生活環境の評価

すべての項目が満足度 50%以上ですが、高齢者の居場所、子どもの遊び場、公共交通の利便性、買い物の便利さ等について評価に地域差を生じています

- 生活環境についてすべての項目が満足度 50%以上となっています（満足度＝大変良い＋良い／合計（不明を除く））。
- 満足度の下位は「高齢者の居場所（57.9%）」「子どもの遊び場（63.9%）」「公共交通の利便性（63.9%）」「買い物の便利さ（64.5%）」となっています。
- 居住地別で評価が合計を下回っているのは、精華中学校区では子どもの遊び場、買い物の便利さ、病院・診療所、公共施設のバリアフリーです。同様に、南中学校区では、防犯、防災、子どもの遊び場、高齢者の居場所、地域ぐるみの子育て、公共交通の利便性、病院・診療所、公共施設のバリアフリーについて評価が合計を下回っています。西中学校区では、公共交通の利便性について評価が合計を下回っています。

問 20 あなたのお住まいの地域の生活環境についてお答えください。





⑨優先すべき施策等

地域の問題は住民・行政・町社協などで協力して解決すべき

地域の問題や課題の解決方法について回答者の3/4は「住民・行政・社協などで協力して解決（74.9%）」と答えています。

問 21 地域の問題や課題の解決方法についてどのように考えていますか。

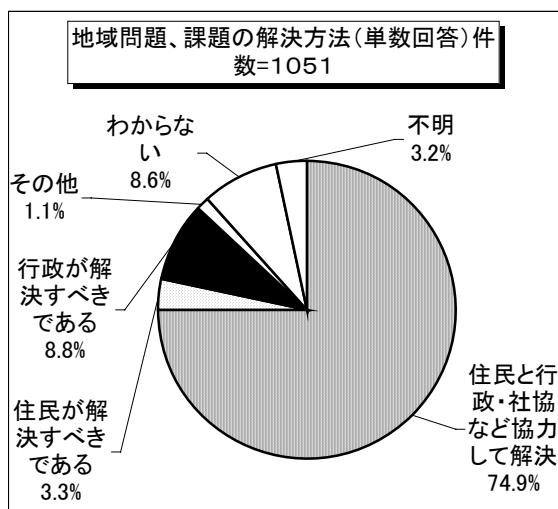


表 年齢（3区分）×地域問題、課題の解決方法

	全体	住民と行政・社協など協力して解決	住民が解決すべきである	行政が解決すべきである	その他	わからない	不明
合計	1051 100.0	787 74.9	35 3.3	93 8.8	12 1.1	90 8.6	34 3.2
20、30歳代	67 100.0	33 49.3	4 6.0	7 10.4	1 1.5	21 31.3	1 1.5
40、50歳代	363 100.0	292 80.4	15 4.1	27 7.4	4 1.1	23 6.3	2 0.6
60歳代以上	553 100.0	421 76.1	14 2.5	55 9.9	6 1.1	41 7.4	16 2.9
不明	68 100.0	41 60.3	2 2.9	4 5.9	1 1.5	5 7.4	15 22.1

表 居住地区（中学校区）×地域問題、課題の解決方法

	全体	住民と行政・社協など協力して解決	住民が解決すべきである	行政が解決すべきである	その他	わからない	不明
合計	1051 100.0	787 74.9	35 3.3	93 8.8	12 1.1	90 8.6	34 3.2
精華中	448 100.0	305 68.1	12 2.7	58 12.9	8 1.8	44 9.8	21 4.7
精華南中	192 100.0	139 72.4	8 4.2	19 9.9	2 1.0	18 9.4	6 3.1
精華西中	399 100.0	335 84.0	13 3.3	16 4.0	2 0.5	27 6.8	6 1.5
不明	12 100.0	8 66.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3

優先すべき施策として、若い世代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」が、高齢者層では「在宅で暮らせるサービスの充実」が多くなっています

- 優先すべき施策では、「在宅で暮らせるサービスの充実」が最も多く、「住民相互の支え合うしくみづくり」「いつまでも健康なサービスの充実」「次代を担う子どもたちの福祉教育」が続いています。
- 20～50歳代では「次代を担う子どもたちの福祉教育」や「地域ぐるみの子育て支援」が、60歳代以上では「在宅で暮らせるサービスの充実」「高齢者や障がい者等の居場所づくり」の回答が多くなっています。

問 22 今後、本町はどのような施策を優先して充実すべきだと思いますか。

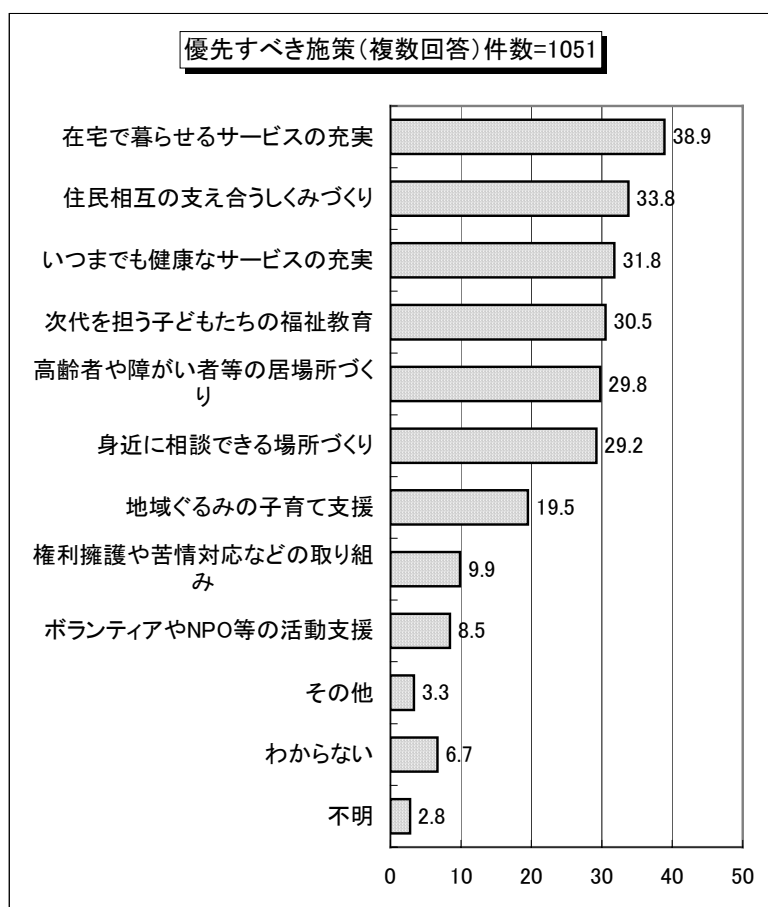


表 年齢(3区分) × 優先すべき施策

	全体	在宅で暮らせるサービスの充実	住民相互の支え合うしくみづくり	いつまでも健康なサービスの充実	次代を担う子どもたちの福祉教育	高齢者や障がい者等の居場所づくり	身近に相談できる場所づくり	地域ぐるみの子育て支援	権利擁護や苦情対応などの取り組み	ボランティアやNPO等の活動支援
合計	1051 100.0	409 38.9	355 33.8	334 31.8	321 30.5	313 29.8	307 29.2	205 19.5	104 9.9	89 8.5
20、30歳代	67 100.0	16 23.9	16 23.9	7 10.4	18 26.9	11 16.4	10 14.9	18 26.9	3 4.5	9 13.4
40、50歳代	363 100.0	103 28.4	121 33.3	111 30.6	146 40.2	80 22.0	102 28.1	114 31.4	38 10.5	25 6.9
60歳代以上	553 100.0	263 47.6	198 35.8	200 36.2	139 25.1	200 36.2	178 32.2	66 11.9	59 10.7	50 9.0
不明	68 100.0	27 39.7	20 29.4	16 23.5	18 26.5	22 32.4	17 25.0	7 10.3	4 5.9	5 7.4

用語解説

【あ】

インフォーマル（サービス、活動）

地域住民やボランティアが行う制度外（非公式）の援助サービス。

【か】

グループホーム

障害のある人が地域の住宅などで、世話人から相談、食事などの日常的な生活援助を受けながら共同生活を行う形態。

高齢者ふれあいサロン

小地域福祉委員会などが主催する、住民による高齢者の居場所づくり。お茶会のほかに、多世代交流、季節の行事などを行っている。

声かけせいか隊

地域住民が災害時要配慮者台帳などをもとに、緊急災害時の助け合いや、日常の見守り活動を行う取り組み。町社協が活動を支援している。

子育てサロン

子育てサークルが主催する、住民による子育て層の居場所づくり。子育ての孤立を防ぎ、母親同士の交流や育児支援の場となっている。

コミュニティ

居住地域を同じくし、利害などをともにする共同社会。

【さ】

自主防災組織

緊急災害時に備えた住民による自主的な防災組織。防災マップづくりや避難訓練などが行われている。

障害者自立支援法

今まで三障害ごとに分かれていた法律、制度、医療やそれらに伴う費用負担などの制度をすべて一本化し、障害のある人が地域で自立して生活できることをめざした法律。

小地域福祉委員会

安心して生き生きとした生活を続けるために、地区福祉推進委員を中心に各自治会単位で住民組織が行う福祉活動。

障害者生活支援センター

障害のある人の相談拠点であり、必要に応じてサービス提供事業所が障害のある人の日中活動や居住の場を提供し、障害のある人の地域生活を支援している。

障害者地域自立支援協議会

相談事業をはじめ地域の障害福祉に関するシステムづくりのために、中核的な役割を果たす協議の場として設置する組織。町単独では限界ある課題について部会を立ち上げ、関係機関や学校などと連携して取り組んでいる。

スクールヘルパー（学校安全地域ボランティア）

子どもの安全対策として、登下校時の子どもの安全パトロールを行っているボランティア活動。

【た】

第2期精華町地域福祉活動計画

精華町社会福祉協議会は平成19（2007）年度に第2期精華町地域福祉活動計画を策定し、町に先行して民間側の地域福祉の取り組みを進めている。活動計画の計画期間は平成20（2008）年度から平成24（2012）年度まで。

地域包括支援センター

要支援1・2に認定された高齢者の支援計画作成業務や、高齢者の権利擁護業務、虐待防止に関する取り組み、介護支援専門員（ケアマネジャー）に対する助言など支援を行う機関。本町では、町社協に委託し実施している。

【は】

フォーマル（サービス、活動）

国や地方公共団体など公的機関が行う、法律などの制度に基づいたサービス。

福祉コミュニティ

地域において支援が必要な方を中心にして、お互いに生活を支えあうコミュニティづくりをめざすもの。まちづくり活動の中に福祉活動があるように、福祉コミュニティは、一般コミュニティに内包される概念。

防犯推進委員会

防犯にかかわる住民の自主組織であり、防犯パトロールや外灯設置、住民への広報活動などが行われている。

ボランティア・アドバイザー

ボランティアを始めたい人を応援したり、ボランティアを必要とする人をボランティアセンターにつなぐなど、小中学校区などのより身近な地域で活動するボランティア。

【や】

要配慮者登録制度

緊急災害時に住民による要配慮者支援を行うために、民生児童委員を中心とした要配慮者の申請登録による要配慮者台帳づくりの活動。

【ら】

隣人祭り

今から 18 年前、パリの青年 3 人が、あるパーティーを始めました。きっかけは、同じマンションに住む一人暮らしの孤独なお年寄りの死。「住民同士の触れ合いがあれば、こんな悲劇は起こらなかつたはず……」。地域の隣人たちがそれぞれに集い、食事をしながら語り合う、それが「隣人祭り」。年に一度、同日同時刻に世界中で一斉に開催される世界 29 カ国、計 750 万人参加の一大イベントが、ついに、日本初上陸。平成 20（2008）年に日本支部ができ、5 月には日本でも新宿御苑で

第1回が開催された。

計画策定にあたって、住民主催の懇談会を「せいか隣人まつり」と称して開催し、出された意見を計画に反映する。「せいか隣人まつり」の開催にあたり、隣人祭り日本支部と連携している。

出典：隣人祭り―「つながり」を取り戻す大切な一歩 ― アタナーズ・ペリファン、南谷桂子 共著

精華町地域福祉計画

～世代をこえて安心して住めるまちをめざして～

発行


平成 21 (2009) 年 9 月

京都府相楽郡精華町 民生部福祉課

〒619-0285 京都府相楽郡精華町南稲八妻北尻 70

TEL 0774-95-1904

FAX 0774-95-3974

再生紙  を使用。地球環境に配慮した用紙とインキです。